

明治十九年四月廿九日內務省贈付

元老院藏版

伊呂波別

現行法

卷上

明治十九年四月印行



C2
5
011

伊呂波別 現行法上卷目錄

○伊爲ノ部

- 一人ニシテ兩名ヲ唱用スルヲ禁ス 一 丁
- 洋銀計算方 一 丁
- 内國郵便船ニ乗組航行スル者ノ姓名等船長ヲシテ記録セシム 二 丁
- 遺失物取扱規則 二 下
- 洋銀取引出願方 六 丁
- 郵便條例 七 丁
- 醫師免許規則 五十六 丁
- 違警罪即決例 五十九 丁

○呂ノ部

目錄

○六十六部ヲ廢ス	六十五丁
○露領千島々ト樺太島交換條約	六十・五丁
○露領樺太島ニテ從來漁業セシ者引繼營業苦シカラス	七十五丁
○露領樺太島貿易當分内地同様船舶出入手數料及物品輸出入 税ヲ免除ス	七十六丁

○波ノ部

○廢藩置縣	七十九丁
○萬國船舶信號法	七十九丁
○賣藥規則	九十九丁
○萬國郵便聯合條約	百九丁
○萬國電信盟約	百五十二丁
○法律規則中罰例ニ係ルモノ處斷方	百六十二丁

○法律規則中戰時ト稱スル場合ヲ定ム	百六十三丁
○賣藥印紙稅規則	百六十四丁
○爆發物取締罰則	百七十丁
○函館札幌根室三縣協議費怠納者處分及不服者出訴方	百七十二丁
○萬國郵便爲換約定	百七十三丁

○仁ノ部

○日本坑法	百九十一丁
○日本形商船外國渡航ノ節國旗ヲ掲揚セシム	二百七丁
○日本銀行條例	二百八丁
○日本形五百石以上ノ船舶製造ヲ禁ス	二百十五丁

○保ノ部

○北海道海關廢置改稱	二百十七丁
○北海道土地賣買規則	二百十七丁
○貿易銀貨	二百廿丁
○捕魚採藻ノ爲メ海面ヲ區畫所用スル者出願方	二百廿三丁
○北海道地租當分地價百分ノ一ト定ム	二百廿四丁
○北海道諸產物出港稅則并各港船改所規則	二百廿四丁
○香港ト日本トノ間郵便爲換及小包遞送方	二百四十丁
○褒賞條例	二百四十五丁
○北海道ニ施行セサル法律規則ハ當分從前ノ通	二百四十九丁
○北海道中拾昆布及帆立身稅賦課額	二百五十丁
○北海道有稅產物取獲者取締方	二百五十丁
○北海道ニ於テ臘虎并膾肭獸ノ獵獲ヲ禁止ス	二百五十一丁
○北米合衆國ト郵便爲換定約	二百五十二丁

○北海道廳ヲ置キ函館札幌根室ノ三縣ヲ廢ス	二百七十九丁
○邊ノ部	
○平民ニ乘馬ヲ許ス	二百八十一丁
○米金獻納ヲ停ム	二百八十一丁
○米油限月賣買禁止	二百八十二丁
○平民自今必ス苗字ヲ唱ヘシム	二百八十四丁
○米商會所條例	二百八十四丁
○變死ノ屍警察官ニテ解剖スルヲ得	三百十二丁
○米商會所並株式取引所收稅規則	三百十二丁
○止ノ部	
○富興行ヲ禁ス	三百十七丁

- 同苗同名ニテ差支アル者ノ外改姓名ヲ禁ス 三百十九丁
- 動産不動産書入金穀貸借規則 地所書入規則ハ知ノ部ニ建物書入規則ハ多ノ部ニ詳出ス 三百廿丁
- 度量衡改定規則 三百廿一丁
- 土地賣買讓渡規則 北海道土地賣買規則ハ保ノ部ニ詳出ス 三百五十四丁
- 賭博犯處分規則 三百五十六丁
- 土地ニ賦課スル區町村費額制限 三百五十八丁

○知ノ部

- 地代店賃等ノ制限ヲ廢ス 三百六十一丁
- 地所質入書入規則 三百六十二丁
- 地所名稱區別 三百七十丁
- 朝鮮國ト修交條約 三百七十六丁
- 朝鮮釜山浦ヘノ郵便稅額當分内地同様トス 三百九十六丁

- 鳥獸獵規則 三百九十七丁
- 地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分 四百二丁
- 地租田方ニ限り願ニヨリ當分半額代米納ヲ許ス 四百三丁
- 地所賣買讓渡等ノ節地券面ニ餘白アルモノハ裏書シテ證認ス 四百四丁
- 地方稅規則 四百四丁
- 治罪法 四百十六丁
- 地租徵收期限 五百六十八丁
- 地券證印稅則 五百七十丁
- 徵發令 五百七十二丁
- 朝鮮國ニ於テ行步規程ヲ犯シタルモノ處罰方 五百八十五丁
- 徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ怠納者處分方並右費用ニ關スル處分不服ノ者出訴方 五百八十五丁

○朝鮮國ニ於テ日本人民貿易ノ規則并朝鮮國海關稅目

五百八十六丁

○朝鮮國トノ貿易手續ハ總テ他ノ外國同様トス

六百廿九丁

○徵兵令

六百三十丁

○地租條例

六百四十六丁

○利ノ部

○離婚ノ出訴ヲ許ス

六百五十三丁

○陸軍步騎砲三兵聯隊軍旗并步兵大隊旗嚮導旗ヲ定ム

六百五十三丁

○立憲政體漸次設立ノ詔勅

六百五十五丁

○利息制限法

六百五十六丁

○舊琉球藩負債償還并貸附金穀取立方

六百五十七丁

○陸軍刑法

六百五十九丁

○陸軍治罪法

六百九十二丁

○陸海軍法術ニ於テ罰金科料ニ處スル時換刑方

七百十二丁(五)

○奴ノ部

○留ノ部

○遠於ノ部

○大藏省證券條例

七百十五丁

○和ノ部

○王政復古更始一新

七百十九丁

○加ノ部

○開港場稅關并監船及附屬船ノ旗章

七百廿三丁

○海里ヲ定ム	七百廿四丁
○香具師ノ名目ヲ廢ス	七百廿五丁
○海關輸出入荷物取扱條例	七百廿五丁
○海軍旗章	七百廿七丁
○鑄造金銀銅貨紙幣等取扱規則	七百三十八丁
○合家ヲ禁止シ既ニ合家セシ者ノ處分方	七百四十丁
○各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則	七百四十一丁
○株式取引所條例	七百四十三丁
○海外行印鑑免狀ヲ廢シ外務省十一年一號布達海外旅券規則 ニ據ラシム	七百六十二丁
○海上衝突豫防規則	七百六十二丁
○海軍刑法	七百七十九丁
○戒嚴令	八百十八丁

○爲替手形約束手形條例	八百廿四丁
○海軍治罪法	八百三十四丁
○海底電信線保護萬國聯合條約	八百五十八丁
○海底電信線保護萬國聯合條約罰則	八百七十六丁
○各省官制	八百七十八丁
○與ノ部	
○多ノ部	
○道路掃除條目	九百九十七丁
○太陽曆頒行	九百九十八丁
○代人規則	千二丁
○建物賣買讓渡并書入質規則	千五丁

- 帶刀禁止 千十七丁
- 大審院并諸裁判所職制章程 千十七丁
- 帶勳有位ノ輩參賀ノ儀 千廿四丁
- 烟草稅則 千廿五丁
- 兌換銀行券條例 千三十八丁
- 單身戶主死亡又ハ除籍ノ後絕家期限 千四十一丁

○禮ノ部

- 禮服ノ制 千四十・三丁
- 連借證中各自分借ノ多寡ヲ明記セサルモノ裁判上處分方 千五十二丁

○曾ノ部

- 損傷紙幣等交換ヲ許ス 千五十五丁

- 僧侶ノ肉食妻帶蓄髮ヲ許ス 千五十五丁

- 僧尼ノ輩ニ神社參詣ヲ許ス 千五十六丁

- 僧尼ノ輩人民一般ノ服忌ヲ受ケシム 千五十六丁

- 僧侶苗字ヲ設ケシム 千五十六丁

- 僧侶身代限規則 千五十七丁

- 訴答文例 千五十九丁

- 僧尼ノ輩族籍編入方 千百十丁

- 租稅先納先々納等下戻ノ出願ハ自今詮議ニ及ハストス 千百十一丁

- 租稅未納者處分方 千百十一丁

○津ノ部

- 通用貨幣ヲ鑄解スル等流通ヲ妨クルヲ禁ス 千百十七丁

○彌ノ部

- 年號御一代一號ト定メ且慶應四年ヲ改テ明治元年トス 千百十九丁
- 鼠取蠅取藥等礬石ノ類ヲ加ヘタル賣藥ヲ禁ス 千百廿丁
- 年齡計算方 千百廿丁

○奈ノ部

- 内國船難破及漂流物取扱規則 千百廿三丁
- 内國勸業博覽會五ヶ年目毎ニ開設ス 千百三十八丁
- 中山道鐵道公債證書條例 千百三十八丁

○良ノ部

○武ノ部

- 無罪解放及人違ノ者旅費支給方 千百四十五丁

○宇ノ部

○乃ノ部

○久ノ部

- 外國和親條約ヲ結ハレシニ付上下其旨ヲ奉體勉勵セシム 千百五十一丁
- 外國船漂著ノ節取扱方 千百五十二丁
- 皇族家紋ヲ十四葉一重裏菊ト定ム 千百五十三丁
- 華士族平民互ニ婚姻スルヲ許ス 千百五十四丁
- 皇族華族取扱規則 千百五十五丁
- 華士族在官ノ外農工商ノ職業ヲ許ス 千百五十五丁

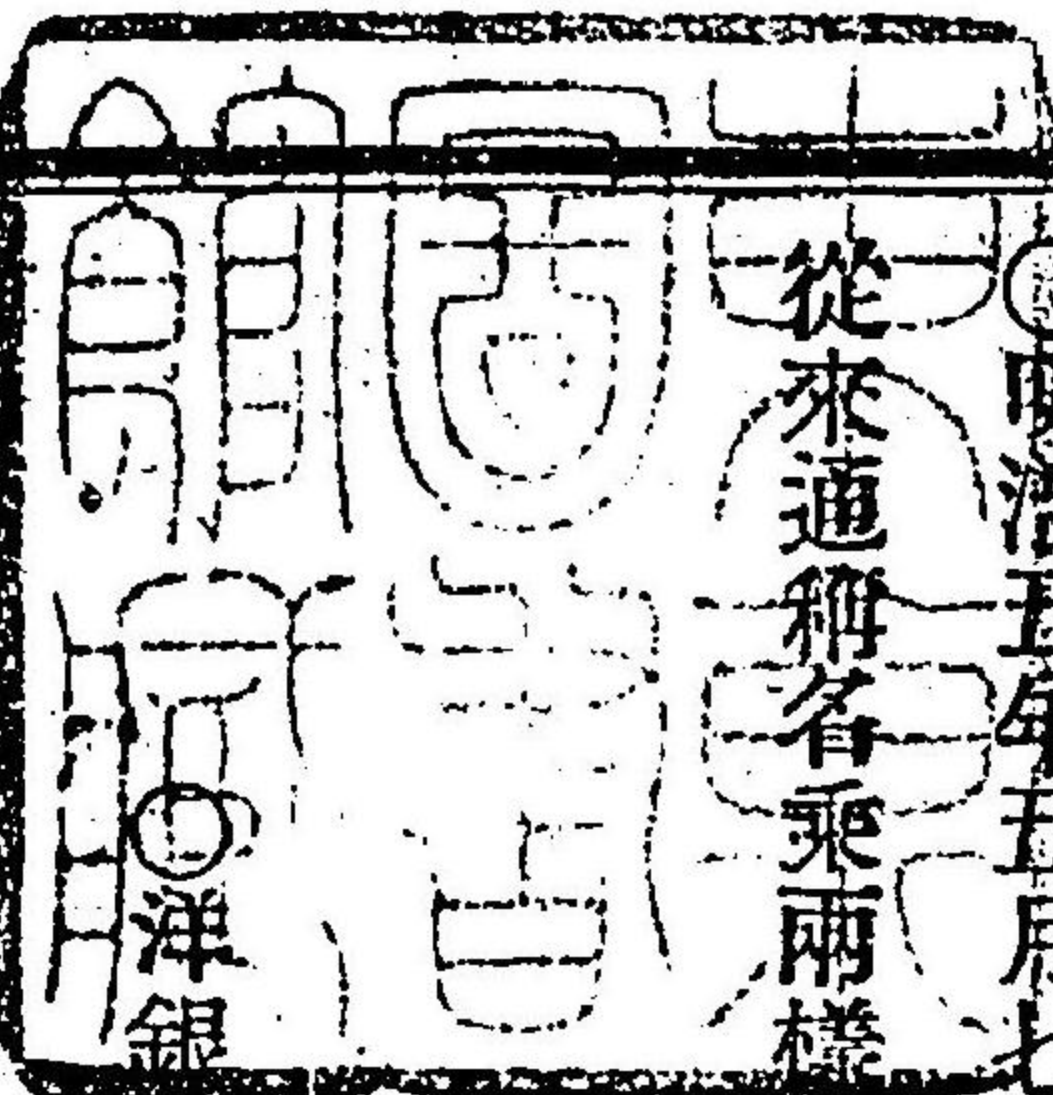
- 華士族子弟厄介ノ輩民籍ニ編入スルヲ許ス 千百五十六丁
- 官民間ノ公文書ニハ各廳長官名ヲ用シム 千百五十六丁
- 華士族平民互ニ養子取組ヲ許ス 千百五十七丁
- 華士族家督相續條規 千百五十七丁
- 外國人ト結婚スルヲ許シ其條規ヲ定ム 千百六十丁
- 華士族分家ノ者ハ平民籍ニ編入ス 千百六十一丁
- 外國人ヘ家屋地所等貸與ノ節ハ豫メ約定草案ヲ以テ管轄廳ニ經伺セシム 千百六十二丁
- 外國人ヘ礦物ヲ賣渡又ハ抵當トナスヲ禁ス 千百六十二丁
- 外國形日本船輸出入稅未納内外貨物廻漕規則 千百六十三丁
- 車稅規則 千百七十二丁
- 火葬禁止ノ制ヲ廢ス 千百七十五丁
- 貨幣條例 千百七十六丁

- 廻漕貨物取扱條例 千二百一十二丁
- 外國船乘込規則 千二百一十五丁
- 華族ノ諸契約書ニハ都テ本人ノ名印ヲ用シム 千二百一十八丁
- 皇子女御降誕ノ節ハ宣下ニ及ハス直ニ親王内親王ト稱セラ
ル 千二百一十九丁
- 火藥庫圍線規則 千二百一十九丁
- 區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則 千二百廿三丁
- 勳章從軍記章 千二百廿四丁
- 外國人雇入心得方 千二百廿五丁
- 郡區町村編制法 千二百廿六丁
- 華士族當主死亡相續人無之ハ親屬ニテ家名ヲ預リ置ク期限
ヲ六ヶ月ト定ム 千二百廿七丁
- 三府 千二百廿八丁
- 一縣 區部郡部會規則

- 課税ニ關スル處分ニ對シ出訴スル者ノ手續 千二百三十一丁
- 勳章褫奪及ヒ佩用停止方 千二百三十二丁
- 區町村會法 千二百三十二丁
- 區町村會若クハ水利土功會ニ於テ議決ノ經費怠納者處分方 千二百三十六丁
- 區町村費ニ關スル不服者出訴方 千二百三十六丁
- 火藥取締規則 千二百三十七丁
- 菓子稅則 千二百四十五丁
- 外國勳章佩用願規則 千二百五十三丁

○伊爲ノ部

- 一人ニシテ兩名ヲ唱用スルヲ禁ス
- 明治五年五月七日第四百四十九號布告
從來通稱各乘兩樣相用候輩自今一名タルヘキ事
- 洋銀計算方
明治五年八月十九日第二百三十號布告
- 洋銀算數ノ儀是迄何弗何十何セント何分何厘又ハ何弗何合何夕或ハ何弗何十何錢何厘杯種々ノ唱呼有之不都合ニ候條以來何弗何十何セントハ相記シ其以下ハ數字ノミ相用可申事



○内 國郵便船ニ乗組航行スル者ノ姓名等船長ナシテ記録セシム

○明治九年三月十八日第三十一號布告

内國郵船ニ乗組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎ニ各人ノ姓名住所并ニ何地迄赴ク旨ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之様可致此旨布告候事

○遺失物取扱規則

○明治九年四月十九日第五十六號布告

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

遺失物取扱規則

第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサ

ルモノナ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ証明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス

第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ壹年內其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸樣員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラス貳拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價額ヲ争フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 凡官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得ル者ハ並ニ官ニ送り地主ト中分セシ

イ井

△但其主分明ナルモノ及ヒ盜賊ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス

第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルベシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ

第十四年七十二號布告
第四條ニヨリニ
以上百圓以下ノ
罰金ニ處ス
刑罰法第三百八十五
條第三百八十六條
參照

送り全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條 凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖其物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヲ証明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

○明治十四年一月三十一日第二號布告

明治九年 月 第五十六號布告遺失物取扱規則第六條左ノ通改正候條此旨布告候事

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルト

キハ之ヲ地主ト中分セシム

但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス

○洋銀取引出願方

○明治十二年二月十三日第八號布告

從來神奈川縣下橫濱港ニ於テ洋銀相場取引致シ候者有之候處右ハ一切禁止候條自今洋銀取引所設立營業致シ度者ハ昨十一年^五月第八號布告株式取引所條例ニ照準シ大藏卿へ可願出此旨布告候事

但資本金ハ拾萬圓以上賣買證據金ハ百分ノ三以上タルヘシ

○明治十二年四月十五日第二十一號布告

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリテ

十三年二十號布告
フ以テ但書ヲ廢シ
金銀買取引ノ所
例ニ遵ハシム

竊ニ米穀並金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場^{定期ヨリ起リテ}賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタルルキハ其罪ヲ問ハス

○郵便條例

○明治十五年十二月十六日第五拾九號布告

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

郵便條例

郵便條例目次

- 第一章 郵便物
- 第二章 郵便税
- 第三章 郵便切手封皮葉書帶紙
- 第四章 免稅郵便
- 第五章 書留郵便
- 第六章 郵便物遞送配達
- 第七章 別配達郵便
- 第八章 郵便私書函

- 第九章 留置郵便
- 第十章 貨幣封入郵便
- 第十一章 郵便沒書
- 第十二章 郵便爲替
- 第十三章 驛遞局貯金
- 第十四章 外國郵便
- 第十五章 罰則

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ四種トス

一 書狀

二 郵便葉書

十七年三月三十一日
 第十七號第一條
 第十七號第二條
 第十七號第三條
 第十七號第四條
 第十七號第五條
 第十七號第六條
 第十七號第七條
 第十七號第八條
 第十七號第九條
 第十七號第十條
 第十七號第十一條
 第十七號第十二條
 第十七號第十三條
 第十七號第十四條
 第十七號第十五條
 第十七號第十六條
 第十七號第十七條
 第十七號第十八條
 第十七號第十九條
 第十七號第二十條
 第十七號第二十一條
 第十七號第二十二條
 第十七號第二十三條
 第十七號第二十四條
 第十七號第二十五條
 第十七號第二十六條
 第十七號第二十七條
 第十七號第二十八條
 第十七號第二十九條
 第十七號第三十條
 第十七號第三十一條
 第十七號第三十二條
 第十七號第三十三條
 第十七號第三十四條
 第十七號第三十五條
 第十七號第三十六條
 第十七號第三十七條
 第十七號第三十八條
 第十七號第三十九條
 第十七號第四十條
 第十七號第四十一條
 第十七號第四十二條
 第十七號第四十三條
 第十七號第四十四條
 第十七號第四十五條
 第十七號第四十六條
 第十七號第四十七條
 第十七號第四十八條
 第十七號第四十九條
 第十七號第五十條
 第十七號第五十一條
 第十七號第五十二條
 第十七號第五十三條
 第十七號第五十四條
 第十七號第五十五條
 第十七號第五十六條
 第十七號第五十七條
 第十七號第五十八條
 第十七號第五十九條
 第十七號第六十條
 第十七號第六十一條
 第十七號第六十二條
 第十七號第六十三條
 第十七號第六十四條
 第十七號第六十五條
 第十七號第六十六條
 第十七號第六十七條
 第十七號第六十八條
 第十七號第六十九條
 第十七號第七十條
 第十七號第七十一條
 第十七號第七十二條
 第十七號第七十三條
 第十七號第七十四條
 第十七號第七十五條
 第十七號第七十六條
 第十七號第七十七條
 第十七號第七十八條
 第十七號第七十九條
 第十七號第八十條
 第十七號第八十一條
 第十七號第八十二條
 第十七號第八十三條
 第十七號第八十四條
 第十七號第八十五條
 第十七號第八十六條
 第十七號第八十七條
 第十七號第八十八條
 第十七號第八十九條
 第十七號第九十條
 第十七號第九十一條
 第十七號第九十二條
 第十七號第九十三條
 第十七號第九十四條
 第十七號第九十五條
 第十七號第九十六條
 第十七號第九十七條
 第十七號第九十八條
 第十七號第九十九條
 第十七號第一百條

イ井

三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録

四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、罫紙、營業品ノ見本及雛形

第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合装スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一 截斷又ハ破却シタルモノ

一 税額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一 税額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一 紙配達又ハ返戻ノ爲ニスルモノヲ除ク其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

一 一葉ヲ折り之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ

一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條 第二種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ驛遞總官ノ認可ヲ

受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カ

ラシムヘシ

其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條 第二種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條 第二種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條 營業者ニアラサルモノ、間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條 異種ノ郵便物ヲ合装スルトキハ總テ其種類中高額税ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條 第三種第四種郵便物營業品ノ見本及雛形ヲ除クハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス

ス

第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス

第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一 毒藥、劇藥、流動物、流動爆發燃燒腐敗シ易キ物、浮化スヘキ物、動物植物、及鋒刃器、硝子器、陶器等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便物ヲ損害スヘキ物品

一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫眞及物品

一金銀、寶玉

一 貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便稅

第十七條 郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

十九年四號布告ヲ以テ第一項ヲ改メ二項トス

十七年三十三號布告ヲ以テ第二種中へ追加ス

第一種郵便物 重量二匁毎ニ二匁未滿亦同シ 二錢

第二種郵便物 一葉 一錢

第三種郵便物 一號一個重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ 一錢

二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ 二錢

第四種郵便物 重量八匁毎ニ八匁未滿亦同シ 二錢

第十八條 郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノト

ス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アル

モノハ此限ニアラス

第十九條 納稅ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書帶紙ノ稅額印面ハ郵便局ニ於テ消

印スヘシ

第二十條 郵便稅ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取りタルトキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徴收スヘシ

第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルキ亦同シ

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ未納税又ハ不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十五條 未納税又ハ不足税ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第二章 郵便切手封皮葉書帶紙

第二十六條 郵便切手郵便封皮郵便葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノ

タルヘシ

第二十七條 郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便税納ノ証トナシ又郵便切手ハ書留手数料并別配達料納濟ノ証トナスモノトス

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ税額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ税額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條 郵便切手封皮葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三十四條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條 郵便封皮葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス

第三十六條 郵便切手并封皮葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限り二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ
第三十七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手并封皮葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第二十八條 郵便、郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第二十九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所并以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳各課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ証スルモノトス

第四十五條 書留手数料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラス六錢トス

第四十六條 書留郵便物ハ郵便税手数料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條 書留手数料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取証書ヲ受領スヘシ

第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取証書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條 免税郵便物ハ書留手数料ヲ納ムルニ及ハス

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條 郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ

配達スヘシ肩書寄宿所ノ類以下之ニ倣フアルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條 完納税郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免税郵便物亦

同シ但市外別配達料船料貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條 未納税又ハ不足税ノ郵便物受取人ニ於テ其税ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルト

キハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第一百五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直

ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘ

シ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數二十日ニ過クヘカラス

第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納税又ハ不足税ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委托スヘカラス又集配人ハ其委托ヲ受クヘカラス

第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六十六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ運達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責ニ任セス

第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ託スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

一 第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ託ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉書ノ交付ヲ求メラルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ

別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條 別配達別テ二類ト爲ス

- 一 市内 郵便局所在地 別配達
- 一 市外 郵便局未設地 別配達

第七十六條 市内別配達料ハ東京京都及大阪ハ拾錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シテ八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便税并別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徵收ス

ヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ船料ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴收スヘシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ
若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一個ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ

シ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第一百七條 貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示スヘシ

イ井

第百八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第百九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第百十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第百十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第百十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ証トシテ受授スヘシ

第百十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數証書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取証書ヲ受領スヘシ

第百十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數証書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第百十五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及ヒ配達賃ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第百十六條 貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徴收スヘシ

第百十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徴收スヘシ

第百十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印税ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第二百十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二百十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第二百十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實証アルモノ、外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章 郵便沒書

第二百十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス

第二百十四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二百十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸証書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年

間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第二百十六條 沒書チ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ没入スヘシ

第二百十七條 沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸証書ハ手数料ヲ徴收セスト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手数料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第二百十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

第二百十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第二百二十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第二百二十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第三百二十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ揭示スヘシ

第三百二十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第三百二十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ

第三百二十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第三百二十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス

第三百二十七條 爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第三百二十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第三百二十九條 爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキ亦同シ

第三百四十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第三百四十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第三百二十九條ノ手續ヲナスヘシ

第三百四十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第三百二十九條ノ手續ヲナスヘシ

第三百四十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第三百四十一條ニ依ル

能ハサルトキハ第四百二十二條ニ依ルヲ得

第四百二十四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻

ヲ受クルトキモ第四百二十二條第四百十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第四百四十五條 爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日付ヨリ百二十日ヲ限リトス

第四百四十六條 効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ

其書換ヲ請求スヘシ

第四百四十七條 爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサ

ルトキハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一

ヲ手数料トシテ徵收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尙ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲

替金ヲ没入スヘシ

第四百四十八條 爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚斑毀損シ判明ナラサルトキハ差出

人ニ於テ證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第四百四十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其

原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第四百五十條 爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料

ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及

ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハ

ス

第四百五十一條 再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタ

ルトキハ之ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第四百五十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第四百五十三條 爲替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替

金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第五百五十四條 爲替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

第五百五十五條 郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第五百五十六條 此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十三章 驛遞局貯金

第五百五十七條 驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス

第五百五十八條 貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第五百五十九條 一人一度ノ預ケ金額ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ヲ限リトス
一日ノ預ケ金額ハ五十圓以下トス

第六百六十條 一度ニ五十圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都府貯金預所ニ設ケアル願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ驛遞總官ノ認可ヲ請フヘシ

第六百六十一條 貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以

テ公告シ且貯金預所ニ揭示スヘシ但十錢未満ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第六百六十二條 貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原簿ニ登記スヘシ

第六百六十三條 貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但驛遞局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月ヲ以テ拂戻月トナスヘシ

第六百六十四條 貯金ヲ拂戻ストキ厘位未満ノ端數ハ切捨ツヘシ

第六百六十五條 始テ預ケ金ヲ爲スモノハ貯金預所ニ設ケアル預ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ但印判ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツヘシ

第六百六十六條 貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ其表紙ニ式ノ如ク記載調印シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ其通帳ヲ所持スヘシ

第六百六十七條 貯金通帳ハ預ケ金受授ノ証トナスヘシ

第六十八條 貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルトキハ通帳ニ其金額及年月日ヲ記入シ貯金預所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印スヘシ

第六十九條 一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ貯金預所ニモ預ケ金ヲナスヲ得

第七十條 既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金預所ニ於テモ別ノ通帳ヲ受領スルヲ得ス

第七十一條 貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳ヲ要スルトキハ驛遞局ニ其通帳ヲ差出シ再度ノ通帳ヲ請求スヘシ

七十二條 貯金預ケ人ハ滿六ヶ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ原簿照合及利子記入ヲ受クヘシ

第七十三條 預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達スヘシ

第七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期限内ニ貯金領收通知

書到達セザルトキハ其期日ヨリ十五日内又到達スルモ記載ノ金額并年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨリ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其中告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取証書ヲ受領スヘシ

一東京 十日

一東京ヨリ百里未満 三十日

一東京ヨリ百里以外 六十日

第七十五條 第七十四條ノ申告書ヲ出サ、ルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セザルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノ、外其責ニ任セス

第七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金全額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ

如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取証書ヲ受領スヘシ

第百七十八條 第百七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領收シタルトキハ貯金拂戻証書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ

第百七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者記名調印シ貯金預所ヲ經テ之ヲ返付スヘシ

第百八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻証書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第百八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻証書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百八十條ノ手續ヲナスヘシ

第百八十二條 拂戻金ハ其拂戻証書ノ日附ヨリ左ノ期日內ニ受取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其証書ノ書替ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事

故ニ因ルモノハ此限ニアラス

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未満

廿五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第百八十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ証人ヲ立テ相續人タルヲ証スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條 預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スヘシ

第百八十五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

第百八十六條 二人以上共同シテ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調

印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ
第百八十七條 社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總代人ヲ以テ一個ノ
預ケ人ト看做スヘシ

第百八十八條 貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉任スルトキハ其屆書ヲ驛遞局ニ出
スヘシ

第百八十九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名
變換改印轉籍轉任スルトキハ貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記ノ屆書ヲ驛遞
局ニ出スヘシ

第百九十條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變更ア
ルトキハ後任者及貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘ
シ

第百九十一條 共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルトキハ前任後任ノ總代及加印
者連印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スヘシ但前任ノ總代人連印スル能ハサルトキハ証人

ヲ立ツヘシ

第百九十二條 貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連
印ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十三條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損シテ判明
ナラサルトキハ証人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證書ヲ
請求スヘシ

第百九十五條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間
其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第百九十六條 再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルト
キハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九十七條 驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シ
タル場合ニ於テ第百七十四條ニ記載シタル期限内ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ

通帳或ハ拂戻証書到達セサルトキハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條 驛遞局又ハ貯金預所ニテ証人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒ムヘカラス

第二百條 貯金ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印税ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條 貯金拂戻方延滞シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二百二條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

- 一 書狀
- 二 郵便葉書

十七年三十三號布告ヲ以テ郵便葉書ノ下及往復葉書ニノ五字ヲ加フ

三 書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四 詞訟上及商用上ノ書類

五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ抵觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合装スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」凡五百三十二ニ超過スヘカラス

イ井

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二拾センチメートル凡曲尺六寸幅十センチ

メートル凡三寸三厚五凡一寸六又其重量ハ二百五十グラム凡六

五分ニ超過スヘカラス

第二百十條 第二項第四項第五項郵便物ヲ合装スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制

限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書ヲ用ユヘシ

第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

一 貨幣又ハ高價ノ物品

一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一 第十六條第一項第二項及第三項ニ記載シタルモノ

十九年四月廣告
以テ第三項ヲ改メ
二項トス

第二百五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅

ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達

地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條 第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百五條第二

百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割

合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取証書返送ヲ望ムヲ

得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外増手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便稅書留手數料及増手數料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付

シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便稅書留手數料増手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及

郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノ、外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」^{一「フランク」ハ}若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ
書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス
一第一項郵便物ハ一個貳錢ニ超過セサル額
一第二項以下ノ郵便物ハ一個壹錢ニ超過セサル額

第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條^{第二百二十二條}第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第十一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條^{第二百二十二條}第七十三條第九十九條第百條第百一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章 罰則

第二百二十七條 第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四

條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以上ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル

モノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十七條 有税ヲ以テ免稅トシ其他詐偽ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二

月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納税又ハ不足税ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百二十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百二十九條 驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條 未納税又ハ不足税及ヒ別配達料船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便税別配達料船料貨幣遞送配達賃私書函

貸與料ヲ徴收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其未タ消印チナサ、ル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預ケ金ヲ領收セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入チナシ又ハ拂戻證書ヲ受取ラスシテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ偽ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

イ井

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遅緩シタルトキハ五十錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條 第二百三十三條第二百二十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百二十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

○明治十七年十二月二十七日第三十三號布告

内國郵便往復葉書及萬國郵便聯合往復葉書ヲ發行シ明治十五年^{十二}月^{十二}第五十九號布告郵便條例中左ノ通改正追加シ明治十八年一月一日ヨリ施行ス

第一條中 二 郵便葉書ノ下「及往復葉書」ノ五字ヲ加フ

第十七條中 第二種郵便物ノ下一葉一錢トアルヲ^{葉一葉一錢}「^{書一葉一錢}」ト改ム

第二百三條中 二 郵便葉書ノ下「及往復葉書」ノ五字ヲ加フ

右ノ外各條中葉書トアル下ニ往復葉書ノ四字ヲ加フ

右奉 勅旨布告候事

○明治十九年二月十日第四號布告

明治十五年^{十二}月^{十二}第五十九號布告郵便條例第十六條及第二百十四條中左ノ通改正ス

第十六條 第一項ヲ改メ左ノ二項トナス

一 毒藥、劇藥、爆發、燃燒シ易キ物品

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

第二百十四條

第三項ヲ改メ左ノ二項トナス

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品

一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

奉 勅

○醫師免許規則

○明治十六年十月廿三日第二十五號布告

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年^二第四號布達同年^八第二十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

別紙

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ルトキハ内務卿ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術

イ井

開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試験ヲ經サル者ト雖トモ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登録シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免許ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年

月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○違警罪即決例

○明治十八年九月二十四日第三拾壹號布告

明治十四年九月九第四拾四號布告及ヒ同年十二月十二日第八拾號布告ヲ廢止シ違警罪即決例別

紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

別紙

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出タリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪

名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

イ井

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サ、ル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ且執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒收シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

○呂ノ部

○六十六部ヲ廢ス

○明治四年十月十四日布告

平民廻國修行ノ名義ヲ以テ六十六部ト稱シ仲間ヲ立寄宿所ヲ設置米錢等ノ施物ヲ乞ヒ候儀自今一切禁止候事

但從前寄宿六部共ノ内脱籍ノ者ハ復籍規則ニ照準シ其本貫ヘ歸籍可爲致事

○露領千島々ト樺太島交換條約

○明治八年十一月十日第百六十四號布告

今般露西亞國ト千島樺太兩島交換條約別紙ノ通取結相成候條此旨布告候事

別紙

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本皇帝此書ヲ以テ宣示ス朕全露西亞皇帝陛下ト望ヲ同シ朕ハ樺太島薩哈ノ内朕カ所領タル部分ヲ全露西亞皇帝陛下ヘ讓與シ全露西亞皇帝陛下ハ其所領タル千島群島クリールノ全部ヲ朕ニ讓與スルヲ互ニ決シタルヲ以テ雙方ノ全權重臣明治八年五月七日彼得堡ニ會シ其條約ヲ締盟調印セリ即其條款左ノ如シ

樺太	交換條約	千島
----	------	----

大日本國皇帝陛下ト

全魯西亞國皇帝陛下ハ今般樺太島即薩哈是迄兩國雜領ノ地タルニ由リテ屢次其間

ニ起レル紛議ノ根ヲ斷チ現下兩國間ニ存スル交誼ヲ堅牢ナラシメンカ爲メ

大日本國皇帝陛下ハ樺太島即薩哈上ニ存スル領地ノ權理

全魯西亞國皇帝陛下ハ「クリル」羣島上ニ存スル領地ノ權理ヲ互ニ相交換スルノ約ヲ結ント欲シ

大日本國皇帝陛下ハ海軍中將兼在魯京特命全權公使從四位榎本武揚ニ其全權ヲ任シ

全魯西亞國皇帝陛下ハ太政大臣金剛石裝飾魯帝照像金剛石裝飾魯國シント、アン
 ドレアス褒牌シント、ウラジミル一等褒牌アレキサンドル、チフスキー褒牌白鷺褒
 牌シントアンナ一等褒牌及シントスタニスラス一等褒牌佛蘭西國レジウン、ド、オ
 ノール大十字褒牌西班牙國金膜大十字褒牌澳太利國シント、エチーテ大十字褒牌
 金剛石裝飾字露生國黑鷲褒牌及其他諸國ノ諸褒牌ヲ帶ル公爵「アレキサンドル、ゴ
 ルチャユフ」ニ其全權ヲ任ゼリ
 右各全權ノ者左ノ條款ヲ協議シテ相決定ス

口

第一款 大日本國皇帝陛下ハ其後胤ニ至ル迄現今樺太島即薩哈ノ一部ヲ所領スル

ノ權理及君主ニ屬スル一切ノ權理ヲ全魯西亞國皇帝陛下ニ讓リ而今而後樺太全島ハ悉ク魯西亞帝國ニ屬シ「ラベルーズ」海峽ヲ以テ兩國ノ境界トス

第二款 全魯西亞國皇帝陛下ハ第一款ニ記セル樺太島即薩哈ノ權理ヲ受シ代トシ

テ其後胤ニ至ル迄現今所領「クリル羣島即チ第一」「シユムシユ」島第二「アライド」

島第三「バラシムル」島第四「マカナルシ」島第五「ナチユタン」島第六「ハリムコタン」

島第七「エカルマ」島第八「シヤスコタン」島第九「ムシル」島第十「ライユケ」島第十一

「マツア」島第十二「ラスツア」島第十三「スレドチワ」及「ウシ、ル」島第十四「ケトイ」

島第十五「シムシル」島第十六「プロトン」島第十七「チエルボイ」並ニ「ブラツトチエ

ルボエフ」島第十八「ウルツプ」島共計十八島ノ權理及ビ君主ニ屬スル一切ノ權理

ヲ大日本國皇帝陛下ニ讓リ而今而後「クリル」全島ハ日本帝國ニ屬シ東察加地方

「ラハツカ」岬ト「シユムシユ」島ノ間ナル海峽ヲ以テ兩國ノ境界トス

第三款 前條所載各地並ニ其地産ハ此條約批准爲取換ノ日ヨリシテ直ニ全ク新領

主ニ屬スル者トス但其各地受取渡ノ式ハ批准後雙方ヨリ官員一名又ハ數名ヲ撰テ受取掛トシ實地立會ノ上執行フベシ

第四款 前條所記交換ノ地ニハ其地ニアル公同ノ土地、人ノ下手セザル地所、一切公共ノ造築、壘壁、屯所、及ヒ人民ノ私有ニ屬セザル此種ノ建物等ヲ所領スルノ權理モ兼存ス

現下各政府ニ屬スル一切ノ建物及動産ハ第三款ニ載スル雙方ノ受取掛役取調ノ上其代價ヲ按查シ其金額ハ其地ヲ新ニ領スル政府ヨリ出ス者ナリ

第五款 交換セシ各地ニ住ム各民（日本人及魯人）ハ各政府ニ於テ左ノ條件ヲ保證ス、各民並共ニ其本國籍ヲ保存スルヲ得ルコト、其本國ニ歸ラント欲スル者ハ常ニ其意ニ放セテ歸ルヲ得ルコト、或ハ其交換ノ地ニ留ルヲ願フ者ハ其生計ヲ充分ニ營ムルヲ得ルノ權理及其所有物ノ權理及隨意信教ノ權理ヲ悉ク保全スルヲ得ル全ク其新領主ノ屬民（日本人及魯人）ト差異ナキ保護ヲ受ル事雖然其各民ハ並共ニ其保護ヲ受ル政府ノ支配下ニ屬スル事

第六款 樺太島即薩哈 韃島 ヲ讓ラレシ利益ニ酬ユル爲メ全魯西亞國皇帝陛下ハ次ノ條件ヲ准許ス

第一條 日本船ノ「コルサユフ」港即クシユニ來ル者ノ爲メニ此條約批准爲取換ノ日ヨリ十ヶ年間港稅モ海關稅モ免スルヲ、此年限期滿ノ後ハ猶之ヲ延スモ又ハ稅ヲ收メシムルモ全魯西亞皇帝陛下ノ意ニ任ス全魯西亞國皇帝陛下ハ日本政府ヨリ「コルサユフ」港ヘ其領事官又ハ領事兼任ノ吏員ヲ置クノ權利ヲ認可ス

第二條 日本船及商人通商航海ノ爲メ「ナホツク」海諸海港及東察加ノ海港ニ來リ又ハ其海及海岸ニ沿テ漁業ヲ營ム等渾テ魯西亞最懇親ノ國民同様ナル權理及特典ヲ得ル事

第七款 海軍中將榎本武揚全權委任狀ハ未タ到來セズト雖モ電信ヲ以テ其送致スル旨ヲ確定セラル、ニ由リ其到ルヲ待タズシテ此條約面ニ記名シ其到ルヲ待テ各全權委任狀ヲ相示スノ式ヲ行ヒ別ニ其事ヲ記シテ以テ左券トスヘシ

第八款 此條約ハ大日本國皇帝陛下並ニ全魯西亞國皇帝陛下互ニ相許可シ而シテ

批准スヘシ但各皇帝陛下ノ批准爲取換ハ各全權記名ノ日ヨリ六ヶ月間ニ東京ニ於テ行フヘシ

此條約ニ權力ヲ附スル爲メ各全權各其姓名ヲ記シ并ニ其印ヲ鈐スル者ナリ

明治八年五月七日即一千八百七十五年四月二十五日 比特堡府ニ於テ

榎本 武揚(印)

ゴルチヤユフ(印)

朕親シク右條約ヲ通覽シ其旨ヲ至當トス故ニ今此書ヲ以テ之ヲ全ク證認批准シ天地ト悠久ヲ期シ總テ條約中所載ノ條款ハ正ニ之ヲ遵行セン事ヲ約ス右定證トシテ爰ニ朕カ各ヲ親記シ國璽ヲ鈐セシム

神武天皇即位紀元二千五百三十五年明治八年八月廿二日

御名 國璽

奉勅

外務卿寺島宗則

外務卿印

○明治九年二月廿九日第二十四號布告

露西亞國ト千島樺太兩島交換條約明治八年^{十一月} 第一百六十四號ヲ以テ布告候處

右附錄別紙ノ通ニ候條此旨布告候事

別紙

千島 樺太 交換條約附錄

明治八年五月七日即チ千八百七十五年四月廿五日露國聖比特堡府ニ於テ調印
濟ノ公文第三款ニ基キ及同日調印ノ條約第五款ノ旨趣ヲ完全ナラシメ且施行
センカ爲メ雙方讓與濟ノ領地ニ在住セル各政府臣民ノ權利及其身分且兩地方
土人ノフニツキ日本皇帝陛下及全露西亞皇帝陛下ハ爲メニ各全權委員ヲ命シ
タリ即チ日本皇帝陛下ハ其外務卿寺島宗則ヲ之レニ任シ又全露西亞皇帝陛下
ハ侍從兼コンセイエーデターアクチユウエル日本在留辦理公使シャル、スツ
ルツエナ以テ此ノ任ニ宛テ雙方委任ノ書ヲ照應シ狀實良好ニシテ其至當タル
ヲ見テ左ノ條款ヲ合議決定スルモノナリ

第一條

交換濟ノ各地ニ住ム日本及露西亞ノ臣民現ニ其所有セル地ニ在住セント願フ
モノハ自個ノ職業ヲ十分營ムヲ得且其保護ヲ受クヘシ又現在所有地界限中ニ
テ漁獵及鳥獸獵ヲ爲スノ權ヲ有シ且其生涯中自己ノ職業上ニ關スル諸稅ヲ免
スヘシ

第二條

樺太^{サカ}島及クリル島ニ在住セント決定スヘキ各臣民ハ所有ノ權利ヲ有スヘ
シ又現今所持ノ不動產ヨリ收入スル物件及所有ノ權利ヲ證明セル證書ヲ渡シ
置クヘシ

第三條

樺太^{サカ}島及クリル島ニ在ル各臣民ハ自個ノ宗旨ヲ尊崇スルヲ全ク自由タル
ヘク又禮拜堂寺堂及墓所ハ毀害スヘカラス

第四條

樺太^{リヌカ}島及クリル島ニ在ル土人ハ現ニ住スル所ノ地ニ永住シ且其儘現領主ノ臣民タルノ權ナシ故ニ若シ其自個ノ政府ノ臣民タラント欲スレハ其居住ノ地ヲ去リ其領主ニ属スル土地ニ趣クヘシ又其儘在來ノ地ニ永住ヲ願ハ、其籍ヲ改ムヘシ其政府ハ土人去就決心ノ爲メ此條約附録ヲ右土人ニ達スル日ヨリ三ヶ年ノ猶豫ヲ與ヘ置クヘシ此三ヶ年中ハ是迄ノ運樺太島及クリル島ニテ得タル特許及義務ヲ變セスシテ漁獵及鳥獸獵其他百般ノ職業ヲ營ムト妨ナシト雖モ總テ地方ノ規則及法令ヲ遵奉スヘシ前ニ述フル三ヶ年ノ期限過キテ猶雙方交換濟ノ地ニ居住センコト欲スル土人ハ總テ其地新領主ノ臣民トナルヘシ

第五條

樺太島及クリル島ノ土人ハ各自個ノ宗旨ヲ尊崇スルコト全ク自由タルヘシ又寺堂及墓所ハ毀害スヘカラス

第六條

此條約附録ノ右五ヶ條ニ載セタル議定ノ件々ハ明治八年五月七日聖比特堡ニ於テ調印濟ノ條約ニ加ヘタルモ同シ權力アルモノナリ
右ヲ確定スル爲メ各全權委員此條約附録ヲ作り二通ト爲シ以テ各其印ヲ調スルモノナリ

東京ニ於テ

明治八年八月廿二日

日本外務卿 寺島 宗則 印

露西亞國辦理公使セ、スツルウエ 印

○露領樺太島ニテ從來漁業セシ者引繼營業苦シカラス

○明治九年三月二日第二十五號布告

露西亞國ト交換相成候樺太島ニテ從來漁業營居候者ハ舊漁場ニ於テ引續營業不苦

口

候條此旨布告候事

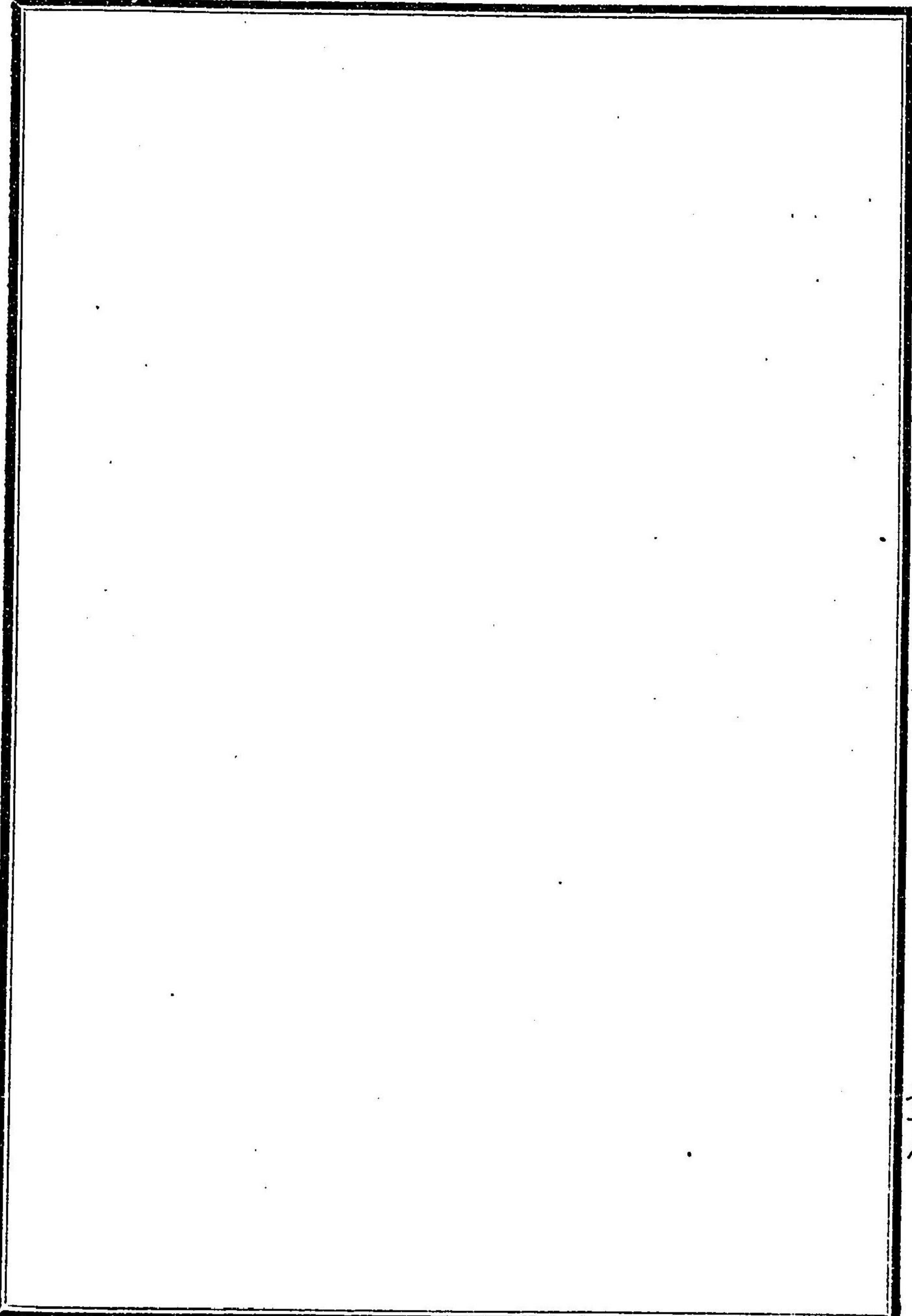
但同所へ出張ノ節ハ人民船舶共尋常海外渡航ノ通航海公證願受所持可致事

○露領樺太島貿易當分内地同様船舶出入手數料及物品輸出入税免除

○明治九年十二月一日第百四十九號布告

露西亞國領樺太島貿易ノ儀當分ノ内内國產物内地運送同様諸船舶出入港手數料及輸出入物品税免除候條明治八年^{十一月}第百六十三號及本年^{三月}第二十九號布告ノ通航船出入港及物品輸出入共其都度開港場税關へ可届出此旨布告候事

但樺太島へ渡航スル船舶ハ必ス内地開港場ヨリ出船シ歸着スルモ同様可心得事



○波ノ部

○廢藩置縣

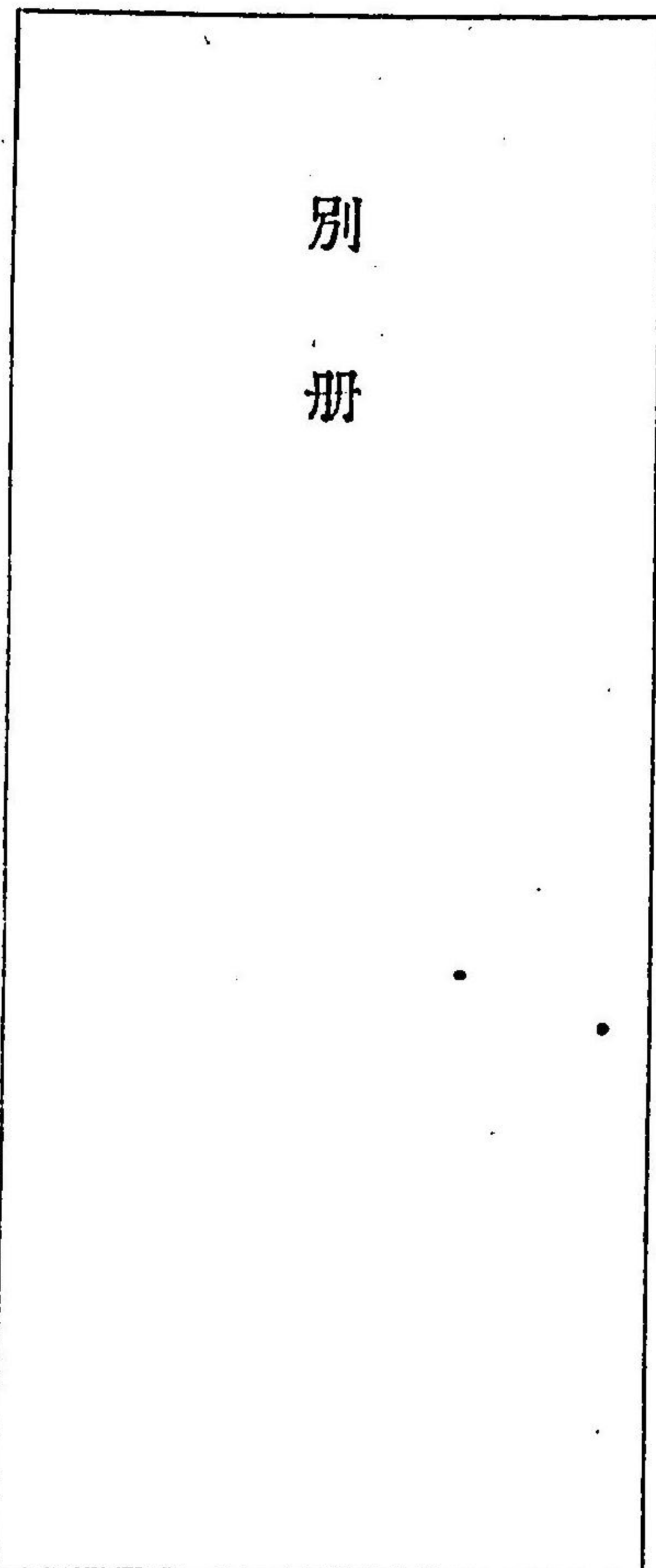
○明治四年七月十四日布告
藩ヲ廢シ縣ヲ被置候事

○萬國船舶信號法

○明治八年九月廿四日第四百四十四號布告
今般御國內西洋形蒸氣帆前船共普通信號貫用可致ニ付テハ船名信號符字附點ノ儀
並萬國船舶信號書及信號旗共海軍省ニ於テ可頒布候條右船舶官有私有共別冊萬國
船舶信號法告諭第三條ニ照準シ其船證書相副同省ヘ可申出此旨布告候事

十年二十四號布告
務省管理トス
十四年四月十三號布告
十四年四月十三號布告
ト改ム
ト改ム

別冊



萬國船舶信號法告諭

第一條

一海上ニ於テ用フル普通信號ノ方法ヲ設定スルノ緊要タルハ歐米ノ諸海國之レヲ論シ既ニ英國政府ニ於テ「インテルナシヨナル、ユード、シクナル」ヲ選定シ以テ刊行シタリ是ニ於テ佛蘭西米利堅連國和蘭瑞典魯西亞希臘以太利澳智利日耳曼西班牙葡萄牙巴西ノ如キ諸海國ノ政府ニ於テモ或ハ之レヲ翻譯刊行シ以テ其軍艦

商船及ヒ陸上信號場ニ於テ專ラ之レヲ用ヒシム因テ今我國海軍省ニ於テモ之レヲ翻譯セシメ萬國船舶信號書ト題シ刊行シ以テ軍艦及ヒ西洋形ノ官船商船及ヒ燈臺ノ如キ信號場ニ於テ互ニ通信應答ヲ爲ス一般ノ法トス故ニ此信號書ヲ備フルニ於テハ以後「マルエツト」氏著述ノ信號書ヲ備フルヲ要セス

第二條

一此信號法ハ素ヨリ艦船ノ保護及ヒ互ノ通信便利ノ爲メニ設定セル者タルヲ以テ右諸海國一般ニ之レヲ用フルカ故ニ西洋形ノ船舶ヲ有スル諸省使府縣及ヒ船主ハ篤ク其意ヲ體シ其船舶ニ此信號書及ヒ信號旗ヲ備ヘ其船長及ヒ士官ヲシテ此用方ヲ習熟セシメ又以後船長及ヒ士官ヲ選舉スル時ハ此者之レヲ了解シタルヤ否ヲ詳細ニ検査スヘシ抑此信號書ノ欠ク可カラサルヲハ既ニ外國ノ或ル信號場ニ於テ海上航行ノ船暗礁ニ觸レントスルヲ看出シタルニ因リ直ニ其場ノ士官萬國船舶信號旗ヲ掲ケ以テ其危險ノ事ヲ通知シタレ其船此信號ヲ了解ス可キ書ヲ有セザリシヲ以テ之レニ注意セス遂ニ危難ニ罹リ破船沈没シタルノ例往々許

多有り豈ニ鑑戒ト爲サ、ル可カラスヤ

第三條

船名信號符字願書ノ法

一今般海軍省ニ於テ船名ヲ指示スル爲メニ必要ナル信號符字ヲ授與セシム故ニ其信號符字ヲ請求スル者ハ官船ニ於テハ其所轄廳ヨリ左ニ掲載セル甲ノ書式ニ其船證書ヲ附シテ海軍省ニ出ス可ク商船ニ於テハ其船主ヨリ乙ノ書式ニ其船證書ヲ附シ所轄廳ヲ經テ海軍省ヘ願出可シ然ル時ハ海軍省ニ於テ其信號符字ヲ其船證書ノ表ニ記入シ授與ス可シ

甲ノ請求書式

當省〔或ハ使府縣〕所轄ノ瀛船〔或ハ帆船〕何丸信號符字點附有之度別紙船證書相副此段及進達候也

明治 年 月 日

省使府縣長官印

海軍卿某殿

乙ノ願書書式

私所有ノ瀛船〔或ハ帆船〕何丸信號符字點附被下度別紙船證書相副此段奉願候也

使府縣管下何大區何小區何町村何番地

華士族平民

何 某 印

明治 年 月 日

海軍卿某殿

前書之通願出候間此殿申副候也

使府縣長官印

第四條

萬國船舶信號場 燈臺之レヲ管掌ス

一前條ノ如ク我國信號場ニ於テモ唯萬國船舶信號法而已ヲ用フルトス然レハ此場ヲ通過スル内外ノ諸船舶此信號法ヲ以テ其船名ヲ指示スル時ハ之レヲ新聞中船舶報告ト題セル部ニ記載シ刊行シ以テ普ク世上ニ報告ス可シ又船主ヨリ其航

行セル船ニ急用ノ消息等ヲ送ラントスル時ハ其船名或ハ信號字ニ附シテ其要件ヲ記シ之レヲ電信或ハ郵便ヲ以テ地方ノ信號場ニ送ル可シ然ル時ハ其信號場ニ於テ其船ヲ認メ次第此信號法ヲ以テ之レニ通知シ而シテ其船ヨリ其應答ヲ要スル時ハ之レヲ船主ニ報ス可キトス

第五條

船名錄

一此船名錄ハ萬國船舶信號書ノ附錄ニシテ艦船ニ授與セル信號符字ト艦名トヲ記載シ以テ陸上信號場及ヒ軍艦官船商船ノ船長ヲシテ其相遇フ所ノ艦船ニ信號ヲ爲シ及ヒ自己ノ船名ヲ通知スルノ便ニ供スル者トス

第六條

一海軍省ニテ前月此信號符字ヲ授與セル船舶ノ名號ハ後月ニ至リテ之レヲ集メ新聞紙中船舶報告ノ部ニ記載シ以テ世ニ公布シ諸船長ヲシテ其船名及ヒ信號符字ヲ知ラシムルニ供シ又毎年其前年中ノ分ヲ編集シ船名錄増補ト號シテ發行ス可シ

第七條

信號旗及ヒ信號書

一萬國船舶信號旗及ヒ信號書ハ海軍省ニ於テ完備ノ者ヲ下附セシムルカ故ニ船主或ハ船長必ス之レカ購求ヲ願出ツ可シ

旗ノ寸方		旗ノ寸方	
小ハ	豎四尺六寸	豎	三尺
		橫	十一尺
中ハ	同五尺	同	四尺
		同	十三尺
大ハ	同六尺	同	五尺
		同	十五尺

但シ「マリエット」氏ノ萬國海上信號旗一式ヲ有スル船ニ於テハ其旗ノ中ヲ以テ多分此信號ノ用ニ充テ得可ク唯MQVWノ旗ト信號示旗トノ五旗ヲ新調スルニ於テハ其使用ヲ得可シ

第八條

海上士官ヲ望ム者ヲ検査スルノ個條

一 検査ノ要目左ノ如シ

第一 此信號法ノ各綱領ヲ了解シ得ルヤノ事

第二 旗信號距離信號、及ヒ端舟信號ヲ容易且敏捷ニ爲シ及ヒ應答シ得可キヤノ事

第三 電信局信號器ヲ以テ信號ヲ爲シ得可キヤノ事

一 検査トハ検査官ノ有スル信號書及ヒ其雛形ノ旗ヲ以テ士官タランコトヲ望ム者ヲシテ實地ノ施行ヲ爲サシメ試験スル事ナリ

第九條

信號法

一 萬國船舶信號ニ用フル旗ハ十八個ト信號示號即チ回答旒一個トナリ

燕尾旗 一個

旒 四個

方旗 十三個

一 此十八旗ハトリヨリW迄ノ子韻符ニ代用ス而シテ此旗二個或ハ三個或ハ四個ヲ聯結シ掲クル時ハ諸語句或ハ文章ノ意ヲ表スル者トス

一 此旗旒ノ種類ハ左ノ如シ

燕尾旗

b 紅ノ燕尾

旒

c 白地ニ紅丸

d 藍地ニ白丸

f 紅地ニ白丸

g 黃ト藍(豎)

方旗

h 白ト紅(豎)

- j 藍ト白ト藍(豎)
 - K 黃ト藍(豎)
 - l 藍ト黃(四個ノ石疊)
 - m 藍地ニ白ノ斜十字
 - n 藍ト白(十六個ノ石疊)
 - p 藍地ニ白方
 - q 黃
 - r 紅地ニ黃ノ正角十字
 - s 白地ニ藍方
 - t 紅ト白ト藍(豎)
 - v 白地ニ紅ノ斜十字
 - w 外郭藍中郭白心紅方
- 信號示旒即チ回答旒 紅ト白ト豎條

一此信號書ハb c e ヨリ始メテf g m dニ至ル迄旗ノ聯結ノ順次ヲ逐書シタルナリ
 故ニ信號ヲ爲サントスル其意思ノ文ヲ索メントニハ此順次ニ就テ見ル可シ

第一編

○ 信號ニテ爲シ得可キ諸般ノ通信及ヒ尋問ノ爲メニ緊要ナル語句及ヒ文章

第二編

○ 第一編ノ信號ノ類語集ニシテ第一編中ニ在ラサルモノハ伊呂波ノ順次ノ四旗信號ニテ増補セリ而シテ之レヲ前後ノ二部ニ分ツ即チ前部ハ原文ノ翻譯後部ハ我伊呂波ノ順次ヲ逐テ其事ノ種類ヲ區別シテ編集セル者ナリ

○ 信號ヲ爲サントスル時ハ必ス此第二編ノ後部ニ就テ爲ス可シ然モ此二部其譯成編集共ニ未タ完備セサレハ假ニ伊呂波順次ノ看出目錄ヲ末附

第二編

シ以テ第二編ノ代用ニ供ス故ニ此目錄ニ就テ第一編中ヲ索ム可キナリ
端舟信號、距離信號、電信局信號器信號及ヒ佛國、葡萄牙及ヒ以太利
ノ電信局信號器信號場及ヒ信號場ノ名錄ヲ記載セリ但シ佛國、葡
萄牙以太利ノ電信局信號器信號場等ノ名錄ハ現今未タ譯成ニ至
ラス

第四編

衝突豫防規則、暴風雨豫報信號、溺者救法立弗布立ノ水路信號等ヲ記載
セリ但シ立弗布立ノ水路信號ハ未タ譯成ニ至ラス

第五編

軍艦及ヒ船舶ノ名ヲ報知スル信號符字ヲ有スル者ノ船舶名錄集ナリ

一萬國船舶信號法ノ最モ稱揚ス可キ所ハ其簡易輕便ナルト區別分明ナルトニ在リ
第十條

信號方法

一此萬國船舶信號書ヲ以テ信號ヲ爲サント欲スル時ハ其以前ニ「ガフ」ニ上ケル國
旗ノ下ニ必ス信號示旒ヲ掲ケ置ク可シ

一信號示旒或ハc旒或ハd旒ヲ唯一個用フル時ハ左ノ意ヲ表ス

○ 信號示旒ハ回答旒ナリ

○ c旒ハ 然リ

○ d旒ハ 否

一右信號ヲ除クノ外總テノ信號ハ二旗或ハ三旗或ハ四旗ヲ以テ爲ス可ク而シテ信號
ノ種類ハ最上ノ旗ヲ以テ之レヲ識別セシム

○ 二旗信號

○ 燕尾最上ナルハ注意信號

○ 旒最上ナルハ方位信號

○ 方旗最上ナルハ緊急及危險信號

- ⊖ 三旗信號
 - 尋問、通信、經緯度及日月日時等ノ如キ信號
 - ⊖ 四旗信號
 - 燕尾最上ナルハ地理信號
 - c d 或ハ f 旒ノ最上ナルハ綴字及ヒ語信號
 - g 旒最上ナルハ軍艦ノ名
 - 方旗最上ナルハ官船商船ノ名
- 明治八年三月

日本海軍艦名錄
此信號ヲ上クル時ハ必ス國旗ノ下ニ信號示旒ヲ掲ク可シ

信號符字	艦名	砲數	信號符字	艦名	砲數
ss qb c	龍驤 Ri-oo-jo.	二	ss qb l	鳳翔 Hou-shiyon.	四
ss qb d	東 Azu-ma.	三	ss qb m	第一丁卯 Dai-iti Tei-bou.	四
ss qb f	筑波 Tsu-kuba.	一一	ss qb n	富士山 Fuji-yama.	
ss qb h	日進 Nis-sin.	七	ss qb p	乾行 Ken-kou.	
ss qb j	春日 Kas-ga.	七	ss qb r	孟春 Mou-shun.	四
ss qb k	雲揚 Wou-yon.	四	ss qb s	第二丁卯 Dai-ni Tei-bou.	四
ss qb t	千代田形 Chiyodagata.	三	ss qb c		
ss qb v	大坂 O-saka.		ss qb f		
ss qb w	快風 Qui-foo.		ss qb h		
ss qb x	華敏 Chow-jin.		ss qb j		
ss qb d	蒼龍 So-ri-yo.		ss qb k		
ss qb f	攝津 So-ts.		ss qb l		
ss qb h	高尾 Taka-o.		ss qb m		
ss qb j	淺間 Asa-ma.		ss qb n		
ss qb k	函谷 Kan-you.		ss qb p		

日本船舶名録

明治八年

此信號ヲ上クル時ハ必ス國旗ノ下ニ信號示旗ヲ掲ク可シ

信號符字	船名	官番	所屬地	船主	噸數	馬力
h b e t						
h b e s						
h b e r						
h b e q						
h b e p						
h b e n						
h b e m						
h b e l						
h b e k						
h b e j						
h b e g						
h b e f						
h b e d						

信號符字	船名	砲數	信號符字	船名	砲數
g q d b			g q f j		
g q c w			g q f h		
g q c v			g q f d		
g q c t			g q f c		
g q c s			g q f b		
g q c r			g q d w		
g q c p			g q d v		
g q c n			g q d t		
g q c m			g q d s		
g q c l			g q d r		

h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h
b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b
g	g	g	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f	f
f	d	c	w	v	t	s	r	q	p	n	m	l	k	j	g	d	c			

h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h	h
b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b
d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d
w	v	t	s	r	q	p	n	m	l	k	j	g	f	e	c	w	v			

信號符字 船名 番官號籍 所屬地 船主 噸數 馬力

信號符字	船名	番官號	所屬地	船主	噸數	馬力
h b g j						
h b g k						
h b g l						
h b g m						
h b g n						
h b g p						
h b g q						
h b g r						
h b g s						
h b g t						
h b g v						
h b g w						
h b j c						
h b j d						

○賣藥規則

○明治十年一月二十日第七號布告

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

別冊

賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥散藥煎藥等家法ヲ以テ合劑シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ヲ經由シテ內務省ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 內務省ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱

十年八十九號布告
ヲ以テ本條ヲ改正ス

十一年二十七日號布告
正
十五年五十二號布告
正
十一年二十七日號布告
正
十一年二十七日號布告
正

上矢誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持スル官許公文ノ寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

十年八月十九號布告
ヲ以テ本條ヲ改正ス

十年八月十九號布告
ヲ以テ本條中改正

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有毒品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノヲアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルヲアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ免許鑑札ヲ改ムルニ及ハスト雖モ其由ヲ届出ツヘシ

十年八月十九號布告
ヲ以テ本條改正

百二
第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

十六號布
十四年二十六號布
正告ヲ以テ本條中改正

第十六條 賣藥營業者及ヒ請賣者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

賣藥請賣鑑札料 藥劑ノ方數ニ拘ハラズ一枚 金貳拾錢

賣藥行商鑑札料 藥劑ノ方數ニ拘ハラズ一枚 金貳拾錢

十七號布
十五年五十二號布
正告ヲ以テ本項へ但書追加

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

十八號布
十一年四號布
正告ヲ以テ納稅期ヲ改正

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ翌年一月三十一日限り鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以

後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有毒品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限り月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

第三章

二十年十六號布
十一年十六號布
正告ヲ以テ罰則ノ俄來ルヲ六月一日ヨリ施行スルコトス

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

十四年二十六號布
告ヲ以テ本條中改

本條中諸鑑札ヲ偽
造シノ七字ハ刑法
第百三十三條ニ
リテ罰ス

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二
十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ
其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入
シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於
テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○明治十年二月七日第十六號布告

本年一月第七號ヲ以テ賣藥規則布告候處該規則第三章罰則ノ儀ハ來ル六月一日
ヨリ施行候條此旨更ニ布告候事

但諸鑑札授受稅納其他手續等ノ儀ハ追テ內務省ヨリ可相違事

十一年二十七號布
告ヲ以テ本條中改

○明治十年十二月廿八日第八十九號布告

本年一月第七號布告賣藥規則中第一條第五條第十四條左之通改正候條此旨布告
候事

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調
製シ效能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記
シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ

添へ其管轄廳へ願出免許鑑札ヲ受ケ管轄廳ハ之ヲ內務省へ届出ヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時
ハ其由ヲ記シ管轄廳へ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

○明治十一年二月十五日第四號布告

船車賣藥牛馬賣買等稅金納期左ノ通明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事

但從前布告達中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止ト心得ヘシ

一船商船船解等車賣藥牛馬賣買等ノ稅金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ

七月三十一日限其管轄廳へ可相納事

但船稅ノ内新規合船六月以前ニ係ル者ハ一年分七月以後ハ半年分解船破

船六月以前ニ係ル者ハ半年分七月以後ハ一年分納稅スヘキ事

○明治十一年九月十九日第二十七號布告

明治十年^一第七號布告賣藥規則中左ノ通改正候條此旨布告候事

第二條 其管轄廳ノ下(テ經由シテ內務省)ノ八字ヲ削ル

第三條 (內務省)ノ三字ヲ(管轄廳)ニ改メ(毒藥)ノ下ニ(劇藥)ノ二字ヲ加フ

第五條 免許鑑札ヲ受ノ下(ケ管轄廳ハ之ヲ內務省へ届出)ノ十三字ヲ削リ(

ク)ノ一字ヲ加フ

第十條第十九條但書(有毒)ヲ(有害)ニ改ム

○明治十四年四月廿六日第二十六號布告

明治十年^一第七號布告賣藥規則第十六條及第二十三條中左ノ通刪除追加候條

此旨布告候事

第十六條 賣藥營業者ノ下(及ヒ請賣者)ノ五字并(賣藥請賣鑑札料)(賣藥行

商鑑札料)ノ二項刪除

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者ノ下(又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥

劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者)ノ三十八字追加

○明治十五年十月廿七日第五十二號布告

明治十年^一第七號布告賣藥規則中左ノ通追加シ來明治十六年一月一日ヨリ施

行ス

第二條へ但書追加

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十六條中右鑑札料云々ノ項へ但書追加

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ

右奉 勅旨布告候事

○明治十三年五月十五日第二十三號布告

石炭酸其他劇藥ハ本年^月第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限り藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

○萬國郵便聯合條約

○明治十二年三月廿七日第十一號布告

明治十年^月第六十四拾五號布告萬國郵便聯合條約ノ儀同十一年六月佛國巴黎斯府ノ郵便大會議ニ於テ別冊ノ通改正決議相成候條當十二年四月一日ヨリ實施可致此旨布告候事

別冊

日耳曼。亞然の音共和國。澳地利。洪島利。白耳義。伯西兒。丁抹。及同諸殖民地。埃及。西班牙。及同諸殖民地。北亞米利加合衆國。佛朗西。及同諸殖民地。大不列顛。及同諸殖民地。英領印度。加那太。希臘。伊太利。日本。歷山堡。墨西哥。滿得涅各羅。那威。和蘭。及同諸殖民地。白露。波斯。葡萄牙。及同諸殖民地。羅馬尼亞。魯西亞。塞爾維。薩瓦多。瑞典。瑞西。土耳其。ノ間ニ締結セル萬國郵便聯合條約

氏名ヲ册後ニ連署セル前掲各國政府ノ全權委員ハ一千八百七十四年十月第九日伯

爾尼ニ於テ締結セシ萬國郵便聯合創立條約第十八條ニ憑據シ茲ニ巴黎斯ノ大會議ニ會集シテ協議ヲ爲シ更ニ各國君主ノ批准ヲ受クヘキモノトシテ左ノ如ク此條約ヲ改正ス

第一條

此條約ヲ締結スル諸國並今後之レニ加盟スル諸國ハ各々其郵便局ノ間ニ互ニ郵便物ヲ交換スル爲メ萬國郵便聯合ノ名稱ヲ以テ單一ノ郵遞邦疆ヲ成ス

第二條

此條約ノ條件ニ照準スヘキモノハ聯合中ノ甲國ヨリ發シ聯合中ノ乙國ニ宛タル信書、端書、各種ノ印刷物、商務上ノ書類及ヒ商品ノ見本トス又聯合中ノ諸國ト聯合外ノ諸國トノ間ニ前記ノ郵便物ヲ郵送交換スルニ當リテ二箇以上ノ聯合國ヲ經テ之ヲ遞送スルトキハ其聯合疆内ノ遞送ニ就テハ同様此條約ニ從フヘキモノトス

第三條

境界相接スル國或ハ(境界相隔タルト雖モ)互ニ他局ノ媒介ヲ借ラスシテ直ニ郵便

十九年二號布告ヲ以テ本條改正

物ヲ交換シ得ヘキ國ノ驛遞局ハ協議ノ上其(相接スル)境界ヲ互ニ通過シ或ハ甲國ノ境界ヨリ(相隔タリタル)乙國ノ境界迄各自ノ郵便物ノ遞送ニ關スル約束ヲ取極ムヘシ

兩國ノ間ニ其一國ニ屬スル郵船ヲ以テ直チニ海運ヲ爲ストキハ別段ノ約定アルモノヲ除クノ外媒介ノ運搬ト見做シ此海運ヲ以テ遞送スルモノ並ニ甲國ニ在ル兩郵便局ノ間ニ於テ乙國ノ管スル海運若クハ陸送ノ媒介ヲ以テ遞送スルモノハ共ニ左條ニ照シ處理スヘキモノトス

第四條

聯合邦疆内ニ於テハ互ニ繼越遞送ノ自由ヲ保護シ之ヲ妨害スルコトナシ故ニ聯合ノ諸驛遞局ハ貿易ノ模様ト郵便事務ノ都合トニ依リ閉囊或ハ開囊ヲ以テ一局若クハ數局ノ媒介ニ依リ互ニ其郵便物ヲ差立ルヲ得ヘシ聯合中ノ兩驛遞局ノ間ニ聯合中ナル他ノ一局或ハ數局ノ運搬ニ依リ閉囊若クハ開囊ニテ交換スル郵便物ハ其郵便物ノ通過スル諸國或ハ其運搬ヲ爲ス諸國へ各々左

ノ繼越運送賃ヲ拂フヘシ

第一 陸地ハ信書或ハ端書一「キログラム」ニ付二「フランク」其他ノ物品一「キログラム」ニ付二十五「サンチム」

第二 海路ハ信書或ハ端書一「キログラム」ニ付十五「フランク」其他ノ物品ハ一「キログラム」ニ付一「フランク」

但シ左ニ掲クルモノハ此限ニアラス

第一 現今已ニ運送賃ヲ收メス或ハ更ニ低下ノ約束ヲ行フモノハ左ノ第三項ニ記載スル場合ヲ除クノ外從前ノ通タルヘシ

第二 從前信書或ハ端書一「キログラム」ニ付六「フランク」五十「サンチム」ノ運送賃ヲ收メタルモノハ今後五「フランク」ニ減スヘシ

第三 二百海里以下ノ海運ヲ以テ運送スル郵便物ハ其海運ヲ管スル驛遞局已ニ陸地運送ノ部ニ於テ其郵便物ニ就キ運賃ヲ收メタルトキハ復其海運賃ヲ收メサルヘシ然ラズシテ陸運賃ヲ收メサルトキハ信書或ハ端書一「キ

十九年二號布告ヲ以テ本項改正

「ログラム」ニ付二「フランク」其他ノ物品一「キログラム」ニ付二十五「サンチム」ヲ收ムヘシ

第四 二國以上ノ驛遞局ニテ海運ヲ爲ストキハ其全路ノ運送賃ハ信書或ハ端書一「キログラム」ニ付十五「フランク」其他ノ物品一「キログラム」ニ付一「フランク」ヲ過クヘカラス而シテ斯ノ如キ場合ニ於テハ其運送ノ距離ニ應シテ各局ノ間ニ其運送賃ヲ分割スベシ尤モ其關係スル諸局ノ間ニ特殊ノ約定アルモノハ此限ニアラス

第五 本條記載ノ運送賃ハ聯合外ノ驛遞局ニ係ル運搬ト聯合内ト雖モ一局ニ於テ他ノ一局若クハ數局ノ都合ノ爲メ或ハ其依頼ニヨリ特ニ開設若クハ維持スル特殊ノ運搬トニハ之ヲ施行スヘカラス此兩種ノ運搬ニ就テハ其關係スル諸局ノ間ニ於テ隨意約定スルヲ得

繼越運送賃ハ其郵便物ヲ發出スル國ノ驛遞局ヨリ之ヲ拂フベシ

此運送賃ノ總勘定ハ二ヶ年毎ニ之ヲ爲ス即チ第十四條ニ約スル細目規則ヲ以テ定

十九年二號布告ヲ以テ本條中修正

ムル所ノ或ル一ヶ月ノ中ニ於テ調査シタル計算ニ基キテ之ヲ爲スヘシ
各驛遞局ノ間互ニ往復スル郵便物再達又ハ誤達ノ郵便物沒書到達證郵便爲替同報
知書其他凡テ郵便事務ニ關スル書類ハ海陸トモ繼越運送賃ヲ拂フヲ要セス

第五條

聯合邦疆内郵便物遞送ノ稅ハ從前配達ノ設アル聯合國又ハ後來配達ヲ開クヘキ聯
合國ニ於テモ之レヲ開ラキタルキハ其名宛人ノ宿所ヘ届達スル迄ヲ込メ左ノ如ク
相定ムヘシ

第一 信書ハ一通毎二十五「グラム」或ハ十五「グラム」ノ分數ニ付前拂ノ節ハ二
十五「サンチーム」前拂ナキ節ハ其二倍トス

第二 端書ハ一枚ニ付十「サンチーム」トス

第三 各種ノ印刷物商務上ノ書類及ヒ商品ノ見本ハ一ノ各宛アル一箇若クハ一
包毎ニ五十「グラム」或ハ五十「グラム」ノ分數ニ付五「サンチーム」トス但シ此
ノ如キ物品若クハ包物ハ決シテ信書若クハ信書ノ性質ヲ具フル者タルヘカラ

ス且容易ク検査シ易キ様ニ爲シ置クヘシ

商務上ノ書類ハ一箇ニ付其郵稅二十五「サンチーム」ヨリ少ナカルヘカラス又商品
ノ見本ハ一箇ニ付其郵稅十「サンチーム」ヨリ少ナカルヘカラス

前諸節ニ定ムル郵稅及ヒ最少稅額ノ外左ノ増稅ヲ收ムルコトヲ得ヘシ

第一 信書或ハ端書一「キログラム」ニ付十五「フランク」其他ノ物品一「キログ

ラム」ニ付一「フランク」ノ海運賃ヲ拂フヘキ郵便物ハ信書一通分ニ付二十五

「サンチーム」端書一枚ニ付五「サンチーム」其他ノ物品ハ五十「グラム」若クハ

五十「グラム」ノ分數毎ニ五「サンチーム」ニ過キサル増稅ヲ收ムルヲ得又一時

便宜ノ爲メ一「キログラム」ニ付五「フランク」ノ海運賃ヲ拂フベキ信書ハ一通

分ニ付十「サンチーム」迄ノ増稅ヲ收ムルヲ得ヘシ

第二 聯合外ノ驛遞局ノ運搬或ハ聯合中ト雖モ特種ノ運搬(之カ爲メニ特ニ費

用ヲ生スル)ニ屬スル各郵便物ハ此費額ニ準シテ増稅ヲ收ムルヲ得ヘシ

前拂不足ノ節ハ郵便物ノ種類ニ拘ハラズ都テ受取人ヨリ其不足金額ノ二倍ヲ收ム

ヘシ

左ノ郵便物ハ遞送セス

第一 信書ヲ除クノ外少クモ其郵税ノ一部分ヲ前拂セサルモノ或ハ上(第三各
種ノ印刷物商務上云々ヲ指ス)ニ記載シタル低税遞送ノ爲メニ必要ノ規定ヲ
犯セルモノ

第二 他ノ郵便物ヲ汚穢シ若クハ損害スヘキ性質ノモノ

第三 市價ヲ有スル商品見本(即チ見本品ヲ直ニ賣買シ得ヘキモノ)及ヒ重量二
百五十「グラム」長サ二十「センチメートル」幅十「センチメートル」厚サ五「サ
ンチメートル」ヨリ過大ナル商品見本

第四 重量二「キログラム」ニ過キタル商務上ノ書類及各種ノ印刷物

第六條

第五條ニ記載シタル郵便物ハ書留トシテ遞送スルコトヲ得ヘシ
書留郵便物ハ差出人ヨリ左ノ如ク郵税ヲ拂ハシム

十九年二號布告ヲ
以テ本項改正
十九年二號布告ヲ
以テ第五條(乙)
ヲ追加ス

第一 其郵便物ノ品質ニ依リ通常前拂ノ税額

第二 書留手数料ハ其差出人へ交付スル受取證マデヲ込テ歐羅巴各國ニ於テハ

二十五「センチメートル」其他ノ國ニ於テハ五十「センチメートル」ニ過クヘカラス

書留郵便物ノ差出人ハ其郵便物ノ到達證ヲ求ムルヲ得ヘシ但シ其手数料トシテ

二十五「センチメートル」ニ過キサル金額ヲ前拂スヘシ

書留郵便物ノ紛失セシ時ハ天災ニ罹ルモノヲ除クノ外其受取之ヲ紛失シタル驛遞

局即チ其踪跡ヲ失シタル海運若クハ陸運ノ驛遞局ヨリ其差出人或ハ差出人ノ望ニ

ヨリ其受取人へ五十「フランク」ノ償金ヲ拂フヘシ

歐羅巴各國ノ外其國ノ法制ニ依リ現ニ辨償ノ責ニ任セサル國ニ於テハ其法制ヲ改

定スル迄一時便宜ノ爲メニ前節ノ實施ヲ延期スルコトヲ得ヘシ尤モ其施行ノ日迄

ハ他ノ聯合國ノ驛遞局ニ於テモ亦其遞送中右ノ國へ宛或ハ右ノ國ヨリ發シタル書

留郵便物紛失ノ節ハ其償金ヲ拂フヲ要セス

兩驛遞局ノ間何レノ遞送中ニ紛失シタルヤヲ確定スルコト能ハサルトキハ其郵便

十九年二號布告ヲ
以テ本項以下五項
削除

ハ

物ヲ交換スル兩局ヨリ各半額ツ、之ヲ出金スヘシ

此ノ償金ハ成ルヘク遲滞ナク之ヲ拂フヘシ遲クモ其請求ヲ爲シタル日ヨリ一ケ年ヲ過クヘカラス

償金ハ其書留郵便物ヲ差出シタル日ヨリ一ケ年以内ニアラサレハ之ヲ請求スルヲ得ス

第七條

「フランク」ヲ以テ貨幣ノ元位トセサル聯合ノ諸國ハ各々其國ノ貨幣ヲ以テ第五條及ヒ第六條ニ定ムル割合ニ從ヒ稅額ヲ定ムヘシ而シテ其端數ハ第十四條ニ記載スル細目規則ニ附シタル表ニ從フテ全數ニ引上クルヲ得ヘシ

第八條

郵便物ノ種類ニ拘ハラズ郵稅ノ前拂ハ必ス其發出ノ國ニ於テ通用スル郵便切手ヲ以テスヘシ
郵便事務ニ就テ驛遞局ノ間互ニ交換スル官用信書ニ限り無稅遞送スヘシ

十九年二號布告ヲ以テ第六條(乙)ヲ追加ス

第九條

第五條第六條第七條及ヒ第八條ニ從ヒ領受シタル金額ハ各局ニ於テ全ク其所得トスヘシ

故ニ之カ爲メニ聯合各局ノ間ニハ何等ノ計算ヲ爲スヲ要セス

信書及ヒ其他ノ郵便物トモ差出地若クハ各宛地ニ於テ差出人或ハ各宛人ヨリ右諸條ニ記載スルモノヲ除クノ外他ノ郵稅若クハ手数料ヲ取り立ツベカラズ

第十條

聯合内ニ於テ郵便物ヲ再達スルコトアルトモ之カ爲メニ別ニ增稅ヲ取り立ツベカラズ

第十一條

左ニ記載ノモノハ郵便ヲ以テ遞送スルヲ許サズ

- 第一 金銀地金貨幣寶玉其他高價ノ物品ヲ封入スル信書或ハ包物
- 第二 海關稅ヲ課スヘキ物品ヲ封入セル各種ノ郵便物

ハ

十九年二號布告ヲ以テ第九條(乙)ヲ追加ス

十九年二號布告ヲ以テ本條改正ス

十九年二號布告ヲ以テ本條中三項ヲ廢シ更ニ四項ヲ添フ

此禁ヲ犯シタル郵便物ヲ聯合中ノ甲局ヨリ聯合中ノ乙局ニ遞送スル時ハ乙局ニ於テハ其國ノ法律若クハ其内地ノ郵便規則ニ定ムル方法ト手續トニ依リ之ヲ處分スベシ

聯合各國ノ政府ハ低稅遞送ノ郵便物中其發行或ハ流布其國ノ法律ト相觸ル、者及ヒ布令若クハ布達ヲ以テ禁シタル文章字句ヲ明記セル各種ノ郵便物ヲ其領内ヲ經テ遞送若クハ配達セサルノ權ヲ有ス

第十二條

聯合外ノ諸國ト關係ヲ有スル聯合ノ驛遞局ハ他ノ聯合諸局ヲシテ此聯合外ノ諸國ト郵便物ヲ交換スル爲メニ此關係ノ利益ヲ受ケシムヘシ
聯合中ノ一國ト聯合外ノ一國トノ間ニ他ノ聯合國ノ媒介ニ依リ開囊ヲ以テ交換スル郵便物ハ其聯合外ノ遞送ニ就テハ其媒介ノ國ト其聯合外ノ國トノ間ノ郵便事務ヲ修整スル別段ノ條約或ハ約束ニ從ヒテ處理スベシ
此種ノ郵便物ヨリ取立ツベキ郵稅ハ左ノ二種トス即チ

第一 第五條第六條及第七條ニ定ムル聯合内ノ定稅

第二 聯合疆外ヲ遞送スル爲メニ收ムル郵稅

此二種ノ中第一項ノモノハ左ノ如ク之ヲ分ツベシ

一 聯合内ヲ發シ聯合外ノ國ヘ宛タル郵便物ハ前拂ノモノハ差出局ヘ先キ拂ヒ
ノモノハ交換局ヘ收ムヘシ

二 聯合外ノ國ヲ發シ聯合内ヘ宛タル郵便物ハ前拂ヒノモノハ交換局先キ拂ヒ
ノモノハ到達局ヘ收ムベシ

第二項ノモノハ出入共ニ交換局ヘ拂入ルベシ

聯合外ノ國ヲ發シ或ハ聯合外ノ國ヘ宛タル郵便物ノ聯合内ノ繼越運送賃ハ其聯合外ノ國ト關係ヲ有スル聯合國ヨリ發シ或ハ其國ヘ宛テタル郵便物ト同様タルベシ
(信書ノ如キ郵稅先キ拂ヲ爲シ得ヘキモノハ聯合外ノ國ト關係ヲ有スル聯合國ヲ以テ到達國ト看做ス)但シ其郵便物ノ内全部或ハ一部ノ前拂ヲ必要ト爲スモノアルトキハ此例外ニシテ右ノ聯合國ハ第四條ニ定ムル陸地ノ運送賃ヲ受クルノ權ア

ルベシ

聯合ノ疆外ヲ遞送スル爲メニ收ムル郵税ノ總勘定ハ第四條ニ從ヒ聯合内ノ運送賃
ヲ算スルト同時ニ調算シタル者ニ基キテ之ヲ爲スベシ

聯合中ノ一國ト聯合外ノ一國トノ間ニ他ノ聯合國ノ媒介ニヨリ閉囊ヲ以テ交換ス
ル郵便物ノ運送賃ハ左ノ如シ

聯合ノ疆内ハ第四條ニ定ムル金額ヲ拂フベシ

聯合ノ疆外ハ其關係スル驛遞局ノ間ニ之カ爲メニ取結ヒタル或ハ取結フベキ特
別ノ約定ニヨルベシ

第十三條

價額公記書狀及ヒ郵便爲替ノ交換ハ聯合中ノ數國ノ間ニ特別ノ約定ヲ以テ之ヲ定
ムヘシ

第十四條

此聯合内諸國ノ驛遞局ハ協議ノ上必要ナル手續細目ヲ按シ實施必要ノ規則ヲ定ム

十九年二號布告ヲ
以テ本條修正

ルヲ得

十九年二號布告ヲ
以テ本條中削除更
定

且右諸國ノ驛遞局ハ聯合一般ニ關セサル事項ニ就テハ相互ニ必要ノ約定ヲ取結フ
コトヲ得ヘシ但シ其約定ハ此條約ニ抵觸セザルヲ要ス然レドモ相互ノ協議ニ依リ
三十「キロメートル」以内ノ地ニ於テ更ニ郵税ヲ減シ或ハ信書別配達ノ約束ヲ爲シ
或ハ返答税、拂濟ノ端書、交換ノ約束ヲ爲スコトヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テ其返答税
拂濟ノ端書ヲ差出地へ還送スルトキハ繼越運送賃ヲ拂フヲ要セサルコト第四條ノ
末節ニ同シ

第十五條

此條約ノ諸條ニ於テ明記セルモノヲ除クノ外此條約ハ各國內地ノ郵便成規ト相關
係スルヲナシ

又此條約ハ郵便事務ヲシテ更ニ改良セシムルノ目的ヲ以テ締盟各國ノ間ニ他ノ條
約ヲ締結若クハ保續シ或ハ更ニ親密ノ聯合ヲ開設若クハ保續スルノ自由ヲ束縛ス
ルコトナシ

十九年二號布告ヲ
以テ本條中修正

第十六條

萬國郵便聯合總理局ノ各義ヲ以テ一箇ノ中央局ヲ置テ瑞西驛遞局ヲシテ之ヲ監理セシムルコト故ノ如シ其費用ハ聯合各驛遞局ヨリ之ヲ給スベシ

總理局ノ主務ハ萬國郵便事務ニ關スル各般ノ報告ヲ集メテ之ヲ印刷頒賦シ若シ兩國ノ間ニ異議ヲ生スル時ハ雙方ノ請求ニ應シテ其意見ヲ附シ又大會議ニ於テ決シタル條目ヲ變更セント建議スルモノアル時ハ之ヲ報知シ又其決局ノ變更ヲ公告シ且聯合ノ利害ニ關スル各般ノ問題ヲ考察シ其宜ニ隨テ之ヲ裁理スルニ在リ

第十七條

此條約ノ意味ヲ解説スルニ於テ聯合ノ二局以上ノ間ニ異見ヲ生スルトキハ中裁ニ依テ之ヲ裁決スヘシ故ニ意見ヲ生シタル各局ハ此事件ニツキ直接ノ關係ナキ他ノ聯合局ヲ推撰シテ其中裁トナスベシ

此裁決決定ハ中裁ノ裁判員過半多數ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
若シ其多數ヲ得サルトキハ此中裁ノ裁判總員ヨリ此事件ニ關係ナキ他ノ一局ヲ推

十九年二號布告ヲ以テ本條修正

撰シ更ニ其裁決ヲ爲サシムヘシ

第十八條

此條約ニ加盟セサル諸國ハ今後其請願ニ依リ之ニ加盟スルコトヲ許スヘシ
此加盟ヲ爲サントスル時ハ在留公使ヲ經テ瑞西聯邦政府ヘ通知シ瑞西聯邦政府ヨリ之ヲ聯合各國ニ通知スベシ

此聯合ニ加盟ノ上ハ此條約ニ定ムル諸節目ヲ遵奉シ且其利益ヲ享受スヘキハ勿論タルヘシ

第十九條

瑞西聯邦政府ハ其國ノ政府ト協議ノ上其國ノ驛遞局ヨリ出金スヘキ聯合總理局ノ經費ヲ定メ且場合ニ依リ第七條ニ從ヒ右驛遞局ニ於テ收ムヘキ郵稅ヲ定ムヘシ
聯合諸國ノ政府若クハ驛遞局ノ内全數ノ三分二以上ヨリ會議ノ開設ヲ請促シ或ハ之ヲ賛成スル時ハ其事項ノ輕重ニ從ヒ各國全權委員ノ大會議若クハ單ニ驛遞局員ノ小會議ヲ開クヘシ

然レモ通常ニ於テ此大會議ハ少クトモ五年目毎ニ必ラス之ヲ開クヘシ
各國一名若クハ數名ノ委員ヲ出シ或ハ他國ノ委員ヲシテ代理セシムルモ妨ケナシ
然レモ一國ノ委員ハ(自國ヲ併セテ)二國以上ノ委員タルコトヲ得ス
會議ニ於テ投決ノ權ハ各國各一トス
各大會議ニ於テ豫メ其次會ノ地ヲ定ムベシ
小會議ノ節ハ聯合總理局ノ發言ニ依テ其會合ノ地ヲ定ムベシ

第二十條

聯合各國ノ驛遞局ハ大會議ヲ開カサルノ時ニ於テモ聯合總理局ヲ經テ他ノ各締盟
局ヘ聯合ノ成規ニ關スル發議ヲ爲スノ權ヲ有ス然レモ之ヲ實行スルカ爲メニハ左
ノ同意ヲ要スベシ

第一 前ニ記載シタル第二條第三條第四條第五條第六條及ヒ第九條ノ約束ヲ變
更セントスル時ハ全聯合諸國ノ同意ヲ要ス

第二 此條約中右第二條第三條第四條第五條第六條及ヒ第九條ノ外他ノ約束ヲ

十九年二號布告ヲ
正以テ本項及次項修

變更セントスル時ハ聯合諸國中三分ノ二以上ノ全意ヲ要ス

第三 前ニ記載シタル第十七條ニ記載スル場合ノ外此條約ノ解說ニ係ルトキハ
單ニ過半多數ノ同意ヲ要ス

此決議ハ第一第二兩項ノ場合ニ於テハ申告狀ヲ以テ之ヲ確認スヘシ

此申告狀ハ瑞西聯邦ノ政府ニ於テ調成シ締盟各國ノ政府ニ送付スルモノトス第三
項ノ場合ニ於テハ單ニ聯合總理局ヨリ聯合各驛遞局ニ之ヲ通知スヘシ

第二十一條

第十六條第十九條及ヒ第二十條ヲ實施スルニ當リ左ノ諸國ハ事宜ニ依リ各一國或
ハ一局ト看做スヘシ

第一 英領印度

第二 加那太領

第三 丁抹諸殖民地

第四 西班牙諸殖民地

第五 佛朗西諸殖民地

第六 和蘭諸殖民地

第七 葡萄牙諸殖民地

第二十二條

此條約ハ一千八百七十九年四月一日ヨリ實施シ永久無期ニ其効チ有スベシ然レモ
締盟各國ハ其政府ヨリ瑞西聯法政府ヘ一ヶ年前ニ報知スルモハ聯合ヲ離ル、ノ權
チ有ス

第二十三條

從前各國或ハ各局ノ間ニ於テ取結ヒタル條約ノ内第十五條ニ於テ保存シタル約定
チ除クノ外此條約ノ節目ニ牴觸スルモノハ凡テ此條約施行ノ日ヨリ廢止タルベシ
此條約ハ成ヘク速ニ各國君主ノ批准ヲ受クヘシ而シテ此批准ハ巴黎斯ニ於テ互ニ
交換スヘシ

此條約ヲ確證セン爲メ前掲各國政府ノ全權委員ハ明治十一年(千八百七十八年)六

月一日巴黎斯ニ於テ此條約ニ姓名ヲ連署スルモノナリ

日本

齋藤尚信

サミウル、エム、ブリヤアン

日耳曼

ドクトル、ステファン

ガンター

サクシー

亞然的音共和國

カルロス、カルヴチ

澳地利

デューズ

洪葛利

ゼルヴェー

白耳義

ジエー、ヴァンシヤン
エフ、ゲーフ

伯西兒

ヅヒコムト、デイタジウバ

丁抹及同諸殖民地

シウ

埃及

エ、カイヤルド

西班牙及同諸殖民地

ジー、クリウエザダ、ヅヒラミール
エミリナ、シード、ナヴァスケー

北亞米利加合衆國

ジエームス、エツチ、ダイナー

ジヨーゼフ、エツチブラックファン

佛朗西

レオン、セー
アド、ユシウリー
ア、ベスニエー

佛朗西諸殖民地

エ、ロアー

大不列顛及同諸殖民地

エフ、オー、アダムス
ドブリウ、ジエー、ページ
エ、マツクレアン

英領印度

フレドリック、アール、ホッグ

加那太

エフ、オー、アダムス
ドブリウ、ジェー、ペー、ジ
エ、マツクレアン

希臘

エン、ビー、デリヤンニー
エ、マンソラス

伊太利

ジー、ビー、ダンテジオ

歴山堡

ヴヒー、ド、ローブ

黒西哥

シト、バレンツダ

滿得涅各羅

デユース

那威

チャールレス、ヘフチー

和蘭及同諸殖民地

ホーフス、テット
バロン、スウィールツ、ド、ランダス、ヴィボール

白露

ジウアン、エム、ド、ゴヴェチツチ

波斯

葡萄牙及同諸殖民地

ジ、ア、ド、パロース

羅馬尼亞

シー、エフ、ロベスコ

魯西亞

バロン、ヴェルホ
ジヨージ、ボツゲンポール

塞爾維

ムラデン、エフ、ラドイユヴィッチ

薩瓦多

ジエー、エム、トールレス、カイセド

瑞典

ダブリュー、ルース

瑞西

ドクトル、ケアン
エド、ホアン

土耳其

ペトロス、クンムジャン

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐タル日本國

皇帝御名此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

明治十一年(千八百七十八年)六月一日巴理府ニ於テ萬國郵便聯合條約締盟ノ舉アルニ際シ善良適宜ナル朕カ特別ノ全權ヲ有セル委員及ヒ同盟各國ヨリモ同一ナル特別ノ全權ヲ有セル委員ヲ以テ日本及ヒ同盟各國ノ間ニ取結シ約書ヲ朕親ラ閱覽點檢セシニ能ク朕カ意ニ適ス故ニ之ニ批准シ其例規約文ノ如ク日本國ニ於テ履行遵守セシム可キ旨ヲ茲ニ確約ス

神武天皇即位紀元二千五百三十八年明治十一年十二月五日東京宮中ニ於テ親ラ名ヲ記シ國璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

奉 勅

外 務 卿

○明治十九年二月五日第二號布告

明治十二年^三月^三第拾壹號布告萬國郵便聯合條約ノ儀同十八年三月葡萄牙國里斯本府郵便大會議ニ於テ別冊改正議決ノ通本年四月一日ヨリ施行ス

奉勅

別冊

萬國郵便聯合

千八百七十八年六月一日日耳曼、亞米利加合衆國、亞然的音共和國、澳地利、洪嚨利、白耳義、ホリウヰア、伯西兒、バルガリア、知利、コロンビア合衆國、コスタリカ共和國、丁抹及其殖民地、ドミニカ共和國、埃及、エエドル、西班牙及其殖民地、佛蘭西及其殖民地、大不列顛及其諸殖民地、加那太、英領印度、希臘、ガテマラ、ハイチ共和國、布哇王國、ホンデユラス共和國、伊太利、日本、ラ非ベリア共和國、歷山堡、墨西哥、滿得涅各羅、ニカラゴア、バラグワイ、和蘭及其殖民地、白露、波斯、葡萄牙及其殖民地、羅馬尼亞、露西亞、薩瓦多、塞爾維

暹羅王國、瑞典、那威、瑞西、土耳其、ウルグワイ及ヴエチズエラ合衆國ノ間ニ締結シタル條約ノ里斯本府追加書

下ニ記名セル前掲諸國政府ノ全權委員ハ千八百七十八年六月一日巴里ニ於テ締結シタル條約第十九條ニ據リ爰ニ大會議ヲ里斯本府ニ開キ互ニ協議ヲ遂ケ更ニ批准ヲ要スヘキモノトシテ左ノ追加書ヲ議決ス

第一條

千八百七十八年六月一日ノ條約左ノ通修正ス

一

第二條左ノ通改正ス

第二條

此條約ノ條件ニ照準スヘキモノハ聯合中ノ甲國ヨリ發シ聯合中ノ乙國ニ宛タル信書、端書、往復端書、各種ノ印刷物、商務上ノ書類及商品ノ見本トス又聯合中ノ諸國ト聯合外ノ諸國トノ間ニ前記ノ郵便物ヲ郵送交換スルニ

當リテ二箇以上ノ聯合國ヲ經テ之ヲ遞送スルトキ其聯合疆内ノ遞送ニ就テハ同様此條約ニ從フヘキモノトス

締約諸國ハ必スシモ往復端書ヲ發行スルヲ要セスト雖トモ聯合中ノ一國ヨリ該端書ヲ受領スルトキハ其返信ノ部ヲ還送スヘキモノトス

二

第四條左ノ通修正ス

第八項左ノ通改正ス

第二 現時海路繼越運送賃ヲ信書或ハ端書一「キログラム」ニ付五「フラシ」其他ノ物品一「キログラム」ニ付五十「サンチム」ト定メタル國々ニ於テハ今後モ此割合ヲ改メサルヘシ

第十三項左ノ通修正ス

此運送賃ノ總勘定ハ三ヶ年毎ニ調査シタル計算書ニ基キ第十四條ニ記セル細目規則中ニ定ムヘキ處ノ二十八日ノ期限内ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十四項左ノ通改正ス

各驛遞局ノ間互ニ往復スル書信、差立國へ向ケ還送スル返信端書、再達又ハ誤達ノ郵便物、沒書、受領證、郵便爲替或ハ其振出し報知書其他都テ郵便事務ニ關スル書類ハ海陸トモ繼越運送賃ヲ拂フヲ要セス

三

第五條左ノ通修正ス

第三項左ノ通改正ス

第二 端書ハ通常一枚端書或ハ往復端書ノ各片ニ付十「サンチム」トス

第七項ノ末文「又一時便宜ノ爲メ」云々ノ一段ヲ削除ス

第十四項左ノ通改正ス

第四 重量ニ「キログラム」ニ過キ若クハ一面ノ寸尺四十五「サンチメートル」ニ過キタル商務上ノ書類及各種印刷物

四

第五條ト第六條トノ間ニ左ノ一條ヲ追加ス

第五條(乙)

郵便物ノ差出人ハ其郵便物未タ各宛人ニ配達セラレサル間ハ之ヲ取戻シ又ハ其名宛ヲ變更スルコトヲ得

右取戻又ハ各宛變更ノ請求ハ差出人ノ自辨ニテ郵便又ハ電信ヲ以テ之ヲ送達ス即チ差出人ハ左ノ賃銀ヲ拂フヘシ

第一 郵便ヲ以テ右請求ヲ送ルトキハ一回ニ付信書一通ノ書留郵便税

第二 電信ヲ以テ右請求ヲ送ルトキハ通常ノ電信料

本條ノ條款ハ郵便物遞送中差出人ノ隨意ニスルコトヲ許サ、ル法制ノ國ニ於テハ必スシモ之ヲ遵守スルノ義務アラサルヘシ

五

第六條第六項ヨリ以下五項ヲ削除シ又同條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第六條(乙)

書留郵便物若シ紛失セシトキハ其防止シ難キ場合ヲ除クノ外其差出人又ハ差出人ノ請求ニ由リ其名宛人ニ於テ五十「フラン」ノ償金ヲ要求スルコトヲ得

右償金ヲ拂フノ義務ハ差立局所屬ノ驛遞局ニ於テ之ヲ負フモノトス但該驛遞局ハ辨償ノ責アル驛遞局即チ其領地内或ハ其取扱中ニ郵便物紛失アリシ驛遞局ニ對シテ右償金ノ拂戻シヲ要求スルコトヲ得

郵便物ヲ異議ナク受領シタル後之ヲ其名宛人ニ配達セシユト若クハ之ヲ繼越驛遞局ニ常式ニ依リ引渡シタルコトヲ證明スル能ハサル驛遞局ハ別ニ反對ノ證左アル迄ハ辨償ノ責アルモノトス

差立局ニ於テ償金ノ拂渡ハ成ルヘク速ニ之ヲ爲シ遅クモ其要求ノ日ヨリ一個年ヲ超ユヘカラス又辨償ノ責アル驛遞局ハ遲滞ナク差立局ヘ其償金額ヲ拂戻スヘシ

償金ノ要求ハ書留郵便物差出ノ日ヨリ一個年内ニ爲ストキニ限り受理セラル、モノトス若シ此期限後ニ至レハ要求アルモ辨償ヲ受ルノ權理ナキモノトス

隣接シタル二國ノ交換局間ニ遞送中郵便物ヲ紛失シ其紛失ノ地兩國ノ中孰レニアルヲ確知スル能ハサルトキハ兩國ノ驛遞局各々償金ノ半額ヲ負擔スヘシ

書留郵便物ニ對スル驛遞局ノ責任ハ右郵便物ヲ受領スルノ權アル者其配達ヲ受ケ受領證ヲ出シタルトキハ止ムモノトス

歐羅巴以外ニ在テ現時其法律ニ於テ辨償責任ノ事ヲ認許セサル國ノ驛遞局ハ其制法廳ヨリ前項ノ條款ヲ認諾スルノ允許ヲ得ル日マテ其條款ノ實施ヲ一時便宜ノ爲メ延期スルコトヲ得但其實施ノ日迄ハ他ノ聯合國ノ驛遞局ニ於テモ右ノ國ヨリ發シ又其國へ宛テタル書留郵便物ヲ遞送中紛失セルトキ其償金ヲ拂フノ責ナキモノトス

六

第九條及第十條ノ間ニ左ノ一條ヲ追加ス

第九條(乙)

聯合諸國中相互ニ其承諾アルトキハ差出人ノ請求ニ依リ各種郵便物ヲ其到達次第直ニ特別配達人ヲ以テ其名宛人へ配達スルコトアルヘシ

此郵便物ハ別配達ト稱シ特別配達料ヲ徵收ス但此配達料ハ二十「サン」ナム「ト」定メ差出人ヲシテ通常郵便税ノ外ニ豫メ之ヲ完納セシメ且差立國驛遞局ノ所得ニ歸スルモノトス

郵便局ノ設ケナキ地方ニ宛タル郵便物ニ付テハ各宛驛遞局ハ其内地郵便物別配達ノ爲メニ定メタル税額ニ達スルマテ更ニ補充税ヲ徵收スルヲ得但此補充税ハ差出人ノ拂ヒタル別配達料ノ額ヲ引去リ或ハ補充税徵收國ノ通貨ニ對スル其相當額ヲ引去リ計算スヘキモノトス

別配達郵便物ト雖トモ其配達料ヲ前納セサルモノハ通常郵便物ト同様ニ

取扱フモノトス

七

第十條左ノ通改正ス

聯合各國ニ於テ郵便物ヲ再達スルコトアルトモ之カ爲メ別ニ増稅ヲ取立ツヘカラス

沒書トナリタル郵便物ニ付テハ先キニ之ヲ遞送セシトキ媒介局ニ於テ收入シタル繼越運送賃ヲ返還セサルモノトス

八

第十一條中第一項第二項及第三項ヲ廢シ更ニ左ノ諸項ヲ置ク

左ニ記載ノモノハ郵便ヲ以テ遞送スルコトヲ許サス

第一 正貨ヲ封入スル信書或ハ包物

第二 關稅ヲ課スヘキ物品ヲ封入セル各種ノ郵便物

第三 金銀地金寶石、珠玉、其他高價ノ物品但其國ノ法律ニ於テ其封入

若クハ遞送ヲ許サ、ル場合ニ限ル

九

第十三條左ノ通修正ス

價額公記ノ書狀、郵便爲替、小包郵便物、除金取立狀及ヒ身元證明帳等ノ交換ハ聯合中數國ノ間ニ特別約定ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

十

第十四條ノ末項「信書別配達ノ約束」云々以下ヲ削リ該項左ノ通更定ス

然レトモ諸國ノ驛遞局ハ互相ノ協議ニ依リ三十「キロメートル」以内ノ地ニ於テ更ニ郵稅ヲ減スルコトヲ得ヘシ

十一

第十五條第一項ノ文左ノ通修正ス

此條約ノ諸條ニ於テ明記セルモノヲ除クノ外此條約ハ各國ノ成規ト相關係スルコトナシ

十二

第十七條左ノ通修正ス

此條約ノ意味ヲ解説スルニ於テ若クハ書留郵便物紛失ノ際驛遞局ノ責任ヲ定ムルニ於テ聯合二局以上ノ間ニ異見ヲ生スルトキハ中裁ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ而シテ右異見ヲ有スル各局ハ此事件ニ付直接ノ關係ナキ他ノ聯合局ヲ推撰シテ其中裁トナスヘシ

中裁ノ判決ハ其裁判員過半數ノ發言ニ依リ定ムヘシ

若シ可否同數ノ發言アルトキハ其裁判總員ヨリ此事件ニ關係ナキ他ノ一局ヲ推撰シ其裁決ヲ爲サシムヘシ

本條ノ諸定規ハ亦凡ソ此追加書第一條第九項ヲ以テ修正シタル千八百七十八年六月一日ノ條約第十三條ニ準シ締結セル諸約定ニモ均シク適用スヘキモノトス

十三

第二十條第二項及第三項左ノ通修正ス

第一 本條并ニ前ニ記載シタル第二條第三條第四條第五條第五條(乙)第六條第六條(乙)第九條及第九條(乙)ノ諸定規ヲ變更セントスルトキハ全聯合諸國ノ同意ヲ要ス

第二 此條約中第二條第三條第四條第五條第五條(乙)第六條第六條(乙)第九條第九條(乙)及第二十條ノ外他ノ諸定規ヲ變更セントスルトキハ聯合諸國中三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第二條

一 此追加書ハ千八百八十六年四月一日ヨリ實施シ千八百七十八年六月一日巴里ニ於テ締結シタル條約ト同時期ノ間効力ヲ有スルモノトス

二 此追加書ハ可成速ニ批准ヲ受ケ其批准書ハ里斯本府ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右確證ノ爲メ前掲諸國ノ全權委員ハ千八百八十五年三月二十一日里斯本府ニ

於テ此追加書ニ記名スルモノナリ

日本

野村靖

日耳曼

サツシユ
フリツシユ

北亞米利加合衆國

ウヰリアム、チー、オット
ワヤス、エス、クロウフホルド

亞然的音共和國

エフ、ビー、ハンセン

澳地利

ドウニス
グハルシャニス

洪嚙利

ジエルヴエー

白耳義

エフ、デーフ

ホリヴイア

ヨアキン、カゾー

伯西兒

ルイズ、シー、ビー、ギマライス

バルガリア

アール、イワノフ

智利

エム、マルチチズ

コロンビア合衆國

セザル、コントー

ユスタリカ共和國

丁抹及其殖民地

ロンド

ドミニカ共和國

ビー、ゴメス、ダ、シルヴァ

埃及

ダブルユ、エフ、ハルトン

エコエドル

ア、フロレス

西班牙及其殖民地

エス、アルヴハレス、ビユガラール

佛蘭西

エ、ヘルス
ラヴウレイ
ア、ベスニエー

佛蘭西殖民地

ラヴウレイ

大不列顛及其諸殖民地

エス、エ、ブラツクウード

加那太

エツチ、ボクストン、フホルマン
エス、エブラツクウード

英領印度

エツチ、ボクストン、フホルマン
エツチ、井ー、エム、ジームス

希臘

ウー、ジエーヌ、ボレル

ガテマラ

ジエー、カレラ

ハイチ共和国	ラザウレイ アンソール
布哇王国	ウーージェーヌ、ボレル
ホンダユラス共和国	ジエーカレラ
伊太利	ジエー、ビー、タンテジオ
ラサベリヤ共和国	コント、サンマルチー
歴山堡	シユ、リシヤールド
墨西哥	エル、ゴレトシ、井、ヴェドラ
滿得涅各羅	ドウエズ ウハルサエス
ニカラゴア	マニユエル、ジエー、アルヴェスザニース
パラグワイ	エフ、エ、レベロ
和蘭及其殖民地	ホフステード ビー、スウ、井ルツ、ド、ランダス、ウイボルグ
白露	エヌ、セミノ
波斯	

葡萄牙	ギレルミノ、オウガスト、ド、パロス
葡萄牙殖民地	エルチスト、マヂーラ、ピントー
羅馬尼亞	ギレルミノ、オウガスト、ド、パロス
露西亞	ジヨン、ギガ
薩瓦多	エヌ、ド、ブザツク
塞爾維	ジエオルヨユ、ド、ボゲンポフホル
暹羅王国	プリスタン
瑞典	ダブルユ、ルース
那威	ヘラルド、アツシユ
瑞西	エド、ホーン
土耳其	
ウルグワイ	エンリツク、クブリー
ヴェネズエラ	ゼー、エル、ベルア、クレスポー

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝阼ヲ踐ミタル日本國皇帝御名此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

明治十一年(千八百七十八年)六月一日佛蘭西國巴里府ニ於テ締結セル萬國郵便聯合條約ニ追加スル爲メ明治十八年(千八百八十五年)三月二十一日葡萄牙國里斯本府ノ萬國郵便聯合會議ニ於テ右同盟各國全權委員ノ記名シタル條約書ヲ朕親ラ閱覽點檢セルニ能ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ之ヲ嘉納批准シ日本國ニ於テ之ヲ履行遵守セシムルコトヲ茲ニ約ス
神武天皇即位紀元二千五百四十六年

明治十九年一月十五日東京宮中ニ於テ親ラ各ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

奉勅

外務大臣伯爵井上馨

○萬國電信盟約

○明治十二年十月十三日第四十五號布告

本年一月露西亞國聖彼得爾堡ニ於テ萬國電信盟約ニ加入シ別冊條約書調印交換相濟候條此旨布告候事

別冊

萬國條約書

第一條

同盟各國ハ何人ヲ問ハス萬國聯合電信ノ方法ニ依テ通信スルノ權利アルヲ承認ス

第二條

同盟各國ハ通信ノ秘密且速達ヲ擔保スルカ爲メ必用ナル百般ノ處置ヲ爲スヘシ

第三條

然レトモ同盟各國ハ萬國電信取扱上ヨリ起ル一切ノ責ニ任セサルヘシ

第四條

同盟各國政府ハ通信ノ速達ヲ擔保スルニ十分ナル線數ヲ設備シ以テ特別ノ電線ト
ナシ萬國電信ノ用ニ充ツヘシ

此特線ハ方今電機學經驗上ニ於テ發明セシ最良ノ方法ヲ以テ建設使用スヘシ

第五條

電信ヲ區分シテ左ノ三種トナス

第一 官報

即チ同盟國ノ首長大臣陸海軍將帥公使又ハ領事ノ通信ヲ云フ

第二 局報

即チ同盟國各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國電信ノ處務ニ關シ或ハ各局協
議ノ上國益トナルヘキ事件ニ關スル者ヲ云フ

第三 私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

第六條

官報并ニ局報ハ隨時ニ暗號ヲ用テ報スルコトヲ得ヘシ

私報ハ暗號ヲ以テ贈答スルコトヲ許シタル兩國政府ノ間ノミニ於テ之ヲ送受スルヲ
得ヘシ

暗號ヲ以テ書シタル通信ヲ認許セサル國ト雖モ第八條ニ云フ通信停止ノ時ヲ除ク
ノ外其私報ヲ傳送スルコトハ許スヘキモノトス

第七條

同盟各國ハ其國ノ治安ニ害アリ其國ノ法律若クハ風儀ニ悖ルモノト看認ル私報ハ
其傳送ヲ差留ルノ權アリ

第八條

各國政府ニ於テハ期限ヲ定メス一時萬國電信ノ使用ヲ停止スルヲ必要ナリト思考
スルトキハ其趣ヲ同盟國各政府ヘ報知シ管下總體ノ電線或ハ一部ノ電線又ハ音信
ノ種類ヲ限リ之ヲ停止スルノ權アリ

第九條

同盟各國ハ音信ノ傳送及ヒ配達ナ一層保全且便捷ニスル爲メ同盟國電信各本局ニ於テ協議裁決シタル種々ノ方法ヲ以テ各出狀人ニ利益ヲ與ル事ヲ務ムヘシ
此各國中孰レニテモ音信ノ傳送及ヒ配達ニツキ別殊ノ方法ヲ用ルコトヲ定メ之ヲ報知スルトキハ其成法ヲ以テ亦各出狀人ニ利益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

第十條

同盟各國ニ於テ萬國稅則ヲ制定スルニハ左ノ諸件ヲ標準トスヘシ
同盟各國孰レノ兩國間ノ局ニテモ同線路ヲ以テ送受スル諸音信ノ稅額ハ此彼同一タルヘシ而シテ此法ヲ施行スルニ當リ歐羅巴ニ於テハ一國ヲ二大區ニ區分スルヲ得ヘシ

稅額ハ首尾ノ政府ト中間ノ政府ト協議ノ上各國順次之ヲ定ムヘシ

同盟各國ノ間ニ送受スル音信ニ適用スヘキ稅額ハ何時タリトモ協議ノ上之ヲ改革増減スルコトヲ得ヘシ

萬國稅則ヲ制定スルニ方テハ「フラン」ヲ以テ貨幣ノ本位ト定ム

第十一條

同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅ニテ傳送スヘシ

第十二條

同盟各國ハ互ニ其收稅ノ計算ヲ爲スヘシ

第十三條

此條約書ハ細目規則ヲ合セテ全備スル者トス而シテ該規則ノ條件ハ同盟國各本局協議ノ上何時タリトモ之ヲ改正スルヲ得ヘシ

第十四條

細目規則中ニ云フ同盟國中各一政府下ニ置ク萬國電信事務局ハ萬國電信ニ關スル諸般ノ報告ヲ集メ之ヲ整理出板シ稅則并ニ細目規則ノ改正ヲ請求スル者アラハ其書ヲ同盟國各本局ニ回達シ而シテ衆議一致シタル改正ノ件々ヲ廣告シ且萬國電信ノ裨益トナルヘキ諸項ヲ臆勉熟慮シテ之ヲ執行スル等ノ任ヲ受クルモノトス

此事務局ニ於テ庶務ヲ調理スル爲メ要スル費用ハ同盟國各本局ヨリ支給スヘシ

第十五條

第十條ニ云フ稅則及ヒ第十三條ニ云フ細目規則ハ此條約書ニ附屬シタル者ニテ條約書ト同一ノ効ヲ有シ且同時ニ施行スヘキモノトス
右稅則及ヒ細目規則ハ會議ノ上更改スルヲ得可シ其際ニ於テハ從來參與セシ各國皆之ニ會同スルヲ得ヘシ

第十六條

此會議ハ定期毎ニ之ヲ開キ而シテ毎回其次會ノ期日并ニ場所ヲ定ムルモノトス
此會議ハ同盟各國ノ諸本局ヨリ派出スル所ノ理事官ヲ以テ成立スヘキモノトス
會議ニ於テハ各本局ノ理事官數各アリトモ決議ノトキハ一人ヲ以テ算ス但一政府下ノ諸局ヨリシテ各此會議ニ列セント欲スルトキハ外國交際上ノ手續ヲ經テ期日前ニ其會議ヲ開クヘキ國ノ政府ヘ照會シ各別ノ理事官ヲ派出セシムルトキハ此限ニアラス

右會議ニ於テ改正スル件々ト雖モ同盟國各政府ノ批准ヲ經タル後ニ非サレハ施行スヘカラス

第十七條

同盟各國ハ萬國一般ニ關係セサル事務上ノ點ニ就テハ各國各自諸般ノ約定ヲ爲スノ權ヲ有ス

第十八條

方今此條約ニ與ラサル國ト雖モ其請求ニ依リテハ之ニ加入スルコトヲ許スヘシ
右加入ハ會同ヲ開キシ國ヘ外國交際上ノ手續ヲ經テ照會スヘシ然ルトキハ該國ヨリ其他諸國ヘ之ヲ報知スヘキモノトス

第十九條

加入セシ上ハ當然ニ此條約ニテ定メタル諸件ヲ行ヒ且衆益ヲ共ニスヘキモノトス
此條約ニ加入セサル國々或ハ私立會社トノ通信ハ此條約第十三條ニ云フ所ノ規則ニ基キ愈進歩ノ通信方法ヲ以テ衆利ヲ圖リ之ヲ取扱フヘシ

第二十條

此條約ハ歐曆一千八百七十六年一月一日ヨリ施行シ永久ニ遵守スヘキモノトス若シ之ヲ廢棄セント欲スト雖正其日ヨリ後一ケ年ヲ過ルマテハ尙ホ遵守スヘシ何レノ國ニ於テ此條約ヲ廢棄スルトモ其國ヲ除クノ外他ノ同盟國ニ於テハ依然之ヲ遵守スヘシ

第二十一條

今般ノ條約ハ同盟國各政府ノ批准ヲ得テ確定スヘキモノトス因テ其定了シタル憑證ハ勉メテ速ニ比特堡府ニ於テ互ニ相交換スヘシ

右條件信證ノ爲メニ各國全權公使各其名ヲ手署シ且其印章ヲ鈐ス

- 日本國
- 日耳曼國
- 澳地利國
- 匈牙利國

- 白義國
- 丁抹國
- 埃及國
- 西班牙國
- 佛蘭西國
- 大不列顛國
- 英領印度國
- 印度并歐羅巴間管轄
- 希臘國
- 伊太利國
- 那威國
- 荷蘭國
- 波斯國

葡萄牙國
露西亞國
瑞典國
瑞西國
土耳其國

○法律規則中罰例ニ係ルモノ處斷方

○明治十四年十二月廿八日第七十二號布告

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
- 第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

- 第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得
右奉 勅旨布告候事

○法律規則中戰時ト稱スル場合ヲ定ム

○明治十五年八月五日第三十七號布告

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノト
ス

右奉 勅旨布告候事

○賣藥印紙稅規則

○明治十五年十月廿七日第五十一號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印
紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄	印稅壹厘
一全 貳錢迄	全 貳厘
一全 三錢迄	全 三厘
一全 五錢迄	全 五厘
一全 拾錢迄	全 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡	黑	色
貳厘	青	色	
三厘	黃	色	
五厘	茶	褐	色
壹錢	赭	色	
貳錢	綠	色	

三錢	濃青色
四錢	橙黃色
五錢	紫色
拾錢	深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金

ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳

圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者

ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

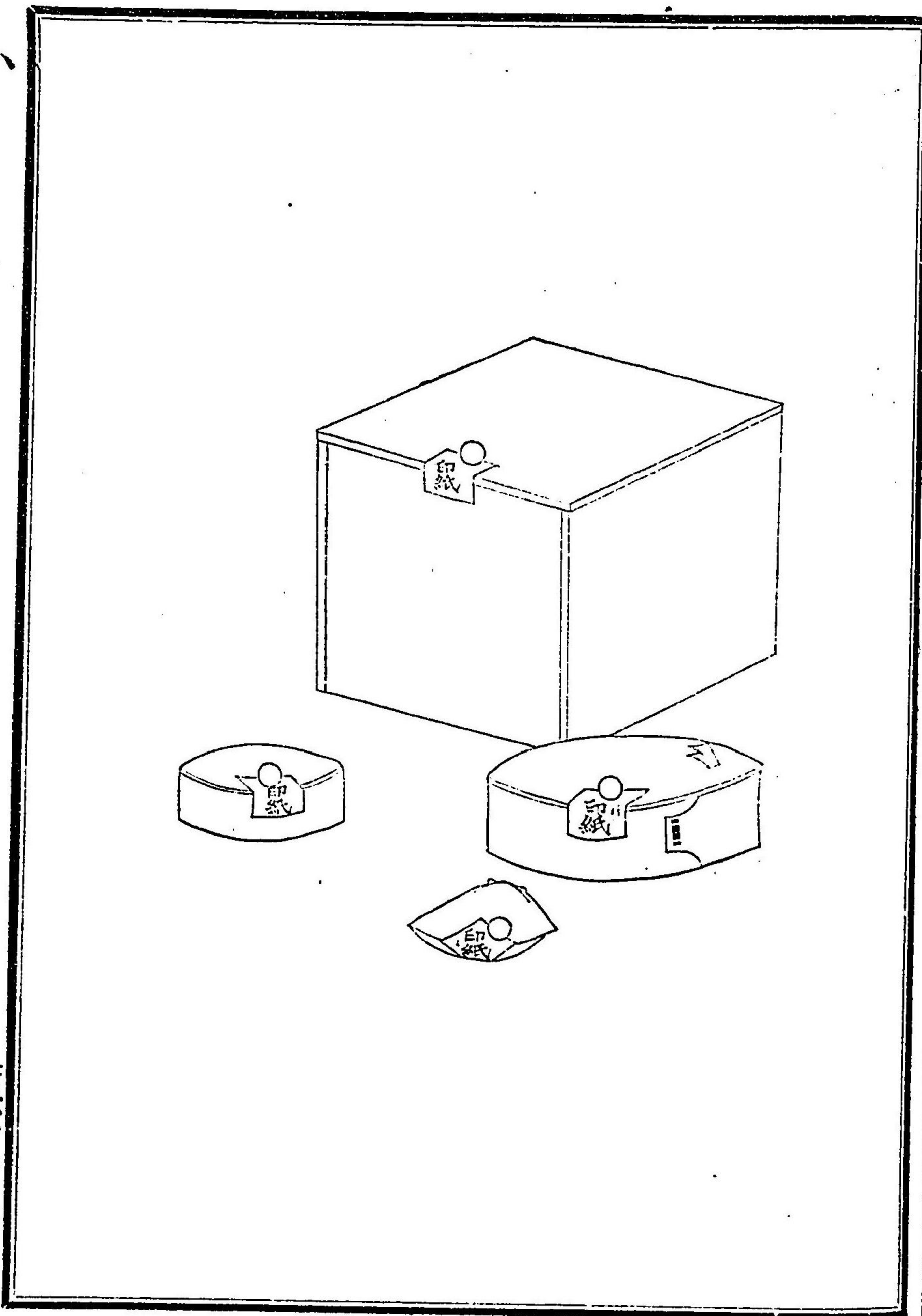
第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處

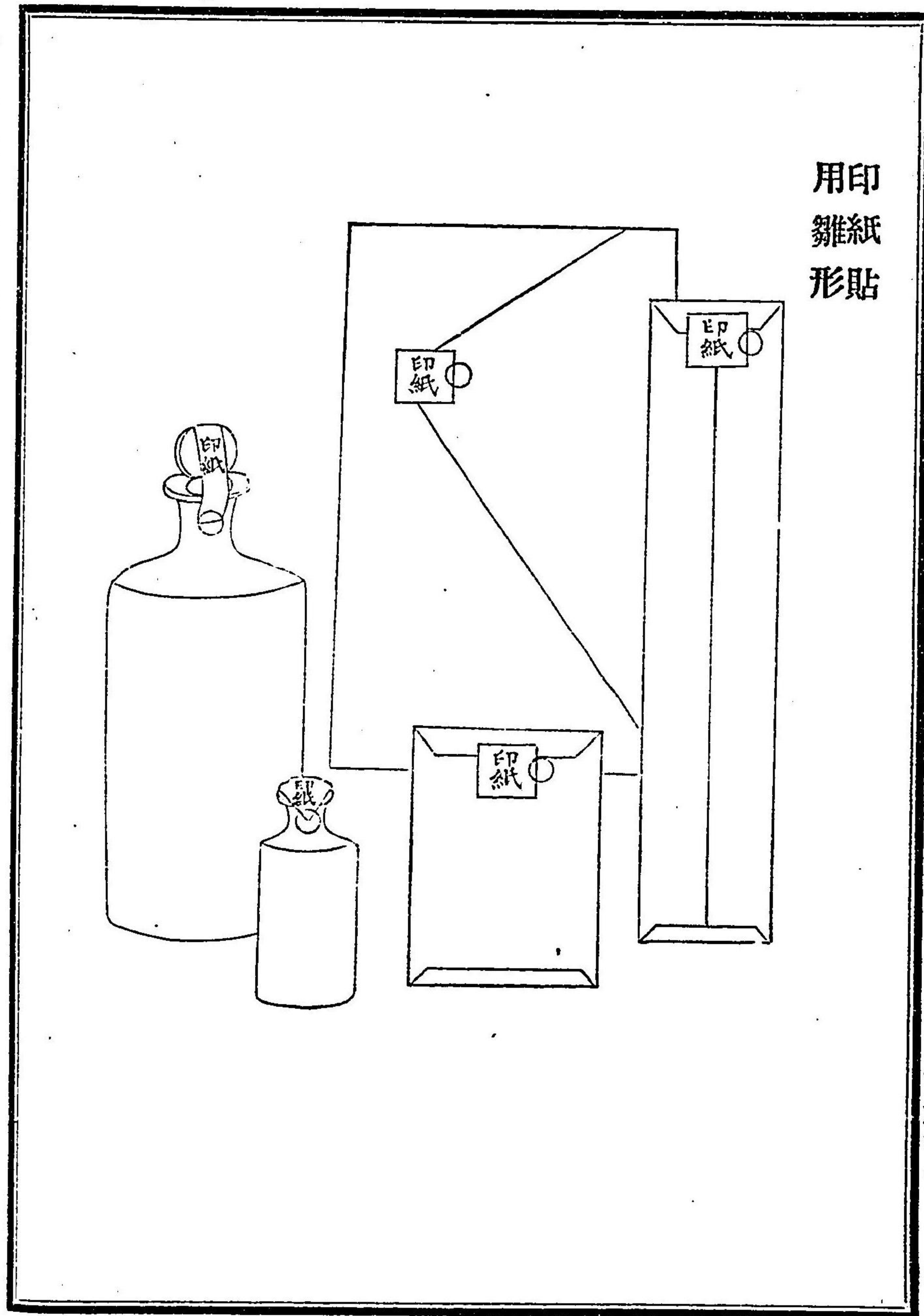
シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金

ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

右奉 勅旨布告候事



用印
雜紙
形貼



○爆發物取締罰則

○明治十七年十二月二十七日第三十二號布告

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

(別冊)

爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明シ能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮

減シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未滿ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○函館札幌根室三縣協議費怠納者處分及不服者出訴方

○明治十八年八月十日第貳拾貳號布告

函館札幌根室三縣ニ於テ區町村總代人ノ評決シタル協議費ノ怠納者ハ明治十七年五月第拾五號布告ニ準シテ處分スヘシ其協議費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモ

ノハ同年七月第貳拾二號布告ニ據ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○萬國郵便爲替約定

○明治十九年二月五日第三號布告

明治十八年三月葡萄牙國里斯本府郵便大會議ニ於テ萬國郵便爲替約定ニ加入シ別冊萬國郵便爲替巴里府約定及ヒ里斯本府追加書ノ通本年四月一日ヨリ施行ス

別冊

萬國郵便聯合

日耳曼、澳地利、洪葛利、白耳義、丁抹、埃及、佛蘭西及其殖民地、伊太利、歷山堡、那威和蘭、葡萄牙、羅馬尼亞、瑞典及瑞西ノ間ニ締結セル郵便爲替交換約定

下ニ記各セル前掲各國政府ノ全權委員ハ郵便聯合創立條約改正ノ爲メ千八百七十

八年六月一日ヲ以テ巴里ニ於テ締結セル條約第十三條ニ據リ協議ヲ遂ケ更ニ批准
ヲ受クヘキモノトシテ左ノ約定ヲ決定ス

第一條

郵便爲替同盟國中此業務ヲ互ニ施行セントスル國々ノ間ニ爲替ヲ交換スルハ此約
定ノ諸項目ニ準據スヘシ

第二條

- 一 爲替ノ金額ハ正金ヲ以テ差出人ヨリ受領シ受取人ニ拂渡スヲ定則トス然レト
モ各驛遞局ハ其國ニ通用ノ紙幣ヲ以テ爲替金受拂ニ充用スルヲ得ヘシ但相場ノ差
アルトキハ其差ヲ算入スヘキモノトス
- 二 爲替一口ニ金額ハ五百「フランク」迄トシ其他ノ貨幣ナレハ之ニ最近ノ額ヨリ
超過スヘカラス
- 三 關係驛遞局ノ間ニ特別ノ約束アルモノヲ除クノ外爲替券面ニ拂渡國ノ通用貨
幣ヲ以テ金額ヲ記載スヘシ振出國ノ驛遞局ハ之カ爲メ必要ナルトキハ自國ノ貨幣

ヲ拂渡國ノ貨幣ニ引直スヘキ割合ヲ定ムヘシ

四 締盟各國ハ其國內ニ於テ他ノ締盟國ヨリ到達セル爲替ニ裏書ノ方法ヲ以テ其
所有權讓渡ヲ許スノ權アリ

第三條

- 一 前條ニ據リ差出人ヨリ取立ヘキ爲替一口ノ手数料ハ二十五「フランク」或ハ其
端數又他ノ貨幣ニシテ端數ヲ生スルトキハ全數ニ引上ケ之ト相當ノ金額ニ付二十
五「サンチーム」トス
- 然レトモ締盟各國驛遞局ハ五十「フランク」ニ過キサル爲替一口ニ付其最少額ノ手
數料トシテ五十「サンチーム」ヲ取立ルヲ得ヘシ
- 二 振出驛遞局ハ拂渡驛遞局ニ對シ前項ニ據リ取立タル手数料ノ半額ヲ拂フヘシ
- 三 郵便爲替券及券面ニ記載スヘキ受取書并ニ差出人ニ交付スル受取證ニ付テハ
本條第一項ニ據リ取立ル手数料ノ外何等ノ手数料ト雖トモ差出人又ハ受取人ニ賦
課スルヲ得ス但受取人ノ住所ニ就テ拂渡ヲナス爲メ持込賃ヲ取立ルハ此限ニアラ

ス

第四條

- 一 締盟各國驛遞局ハ今後細目規則ニ定ムル期限ニ至リ各其郵便局ニ於テ拂渡タル金額ト爲替振出ニ付取立タル手数料ヲ記載セル計算書ヲ調製スヘシ而シテ此計算書ハ互ニ調査審定ノ上特別ノ約束アルモノヲ除クノ外該細目規則ニ定ムル期限中ニ借越トナリタル驛遞局ヨリ貸越國ノ貨幣ヲ以テ其殘額ヲ仕拂フヘシ
- 二 爲替金拂渡ニ用ヒタル貨幣其種類ヲ異ニスルトキハ其額ノ少ナル貨幣ヲ其額ノ多キモノニ引直スヘシ但計算期限中借越國都府ニ於ケル兩換平均相場ヲ以テ引直ノ基礎トス
- 三 定期中ニ計算ノ殘額ヲ仕拂ハサルトキハ其期限ヲ過キタル日ヨリ其仕拂ヲナス日迄利子ヲ附スヘシ此利子ノ割合ハ一個年五分ト定メ仕拂ヲ延滞シタル驛遞局ノ借高トシテ次期ノ計算書中ニ記入スヘシ

第五條

- 一 郵便爲替トナシタル金額ハ之ヲ受取人又ハ其代理人ニ拂渡ス迄差出人ニ對シ保證スヘキモノトス
- 二 郵便爲替トシテ各驛遞局ニ預リタル金額ハ振出國ノ法律若クハ規則ヲ以テ定メタル期限内ニ其所有權アルモノノ請求ヲキトキハ之ヲ振出シタル驛遞局ノ所得ニ歸スヘシ

第六條

締盟各國ハ從來存スル所ノ特別約定ヲ維持シ或ハ新ニ之ヲ締結シ又ハ電信ヲ以テ爲替ヲ執行スル等其他萬國郵便爲替ノ事業ヲ改良スルノ目的ヲ以テ從來存スル所ノ親密ナル聯合ヲ維持シ或ハ新ニ之ヲ締結スルモ此約定ニ定ムル所ノ條款ハ其權利ヲ制限セサルモノトス

第七條

各驛遞局ハ萬國爲替事務ヲ停止セサルヲ得サル非常ノ事故アルトキハ全體或ハ其一部分ヲ一時停止スルヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ其趣ヲ速ニ關係ノ驛遞局ヘ報知

ハ

スヘシ又至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テ報知スヘシ

第八條

現今此約定ニ加盟セサル聯合諸國ハ其請求ニ依リ千八百七十八年六月一日締結ノ條約第十八條ニ掲載スル萬國郵便聯合ニ加盟ノ手續ニ隨ヒ之ニ加入スルヲ得ヘシ

第九條

締盟各國驛遞局ハ前數條ニ據リ爲替ノ受拂ヲ取扱フヘキ郵便局ヲ指定シ爲替遞送ノ方式並ニ第四條ニ掲クル計算ノ式其他此約定實施ニ必要ナル細目ノ方法ヲ定ムヘシ

第十條

締盟各國ノ驛遞局ハ千八百七十八年六月一日締結ノ條約第十九條ニ掲ケタル會議ノ期ニ至ラサルモ總理局ヲ經テ他ノ締盟驛遞局ニ對シ郵便爲替事務ニ關スル發議ヲ爲スノ權アリ但左ノ同意ヲ得サレハ之ヲ實行スルヲ得ス

第一 此ノ約定第一條第二條第三條第四條第十條及第十一條ヲ變更セントスル

トキハ聯合全國ノ同意

第二 此約定第一條第二條第三條第四條第十條及第十一條ヲ除キ其他ノ條款ヲ

變更セントスルトキハ聯合全國三分ノ二以上ノ同意

第三 此約定條款ノ解説ニ關スルトキハ單ニ過半數ノ同意

右第一第二兩項ノ場合ニ於テハ千八百七十八年六月一日締結ノ條約第二十條ノ末項ニ掲クル方式ニ隨ヒ外交上ノ申告狀ヲ以テ之ヲ確認シ第三項ノ場合ニ於テハ同條ニ據リ驛遞局ヘノ通知ヲ以テ認可スヘシ

第十一條

一 此約定ハ千八百七十九年四月一日ヨリ實施スヘシ

二 此約定ハ千八百七十八年六月一日締結ノ條約ト同時ニ批准ヲ受ケ且之ト同一ノ期限ヲ有スヘシ但各國ハ瑞西聯邦政府ヘ一個年前其趣ヲ通知セハ此約定ヨリ脫スルノ權アリトス

三 同盟諸國ノ政府若クハ其驛遞局ノ間ニ取結ヒタル約束ニシテ第六條ニ掲ケタ